

パキスタン国
パンジャブ州識字行政改善
プロジェクト フェーズ2

及び

ノンフォーマル教育推進
プロジェクト

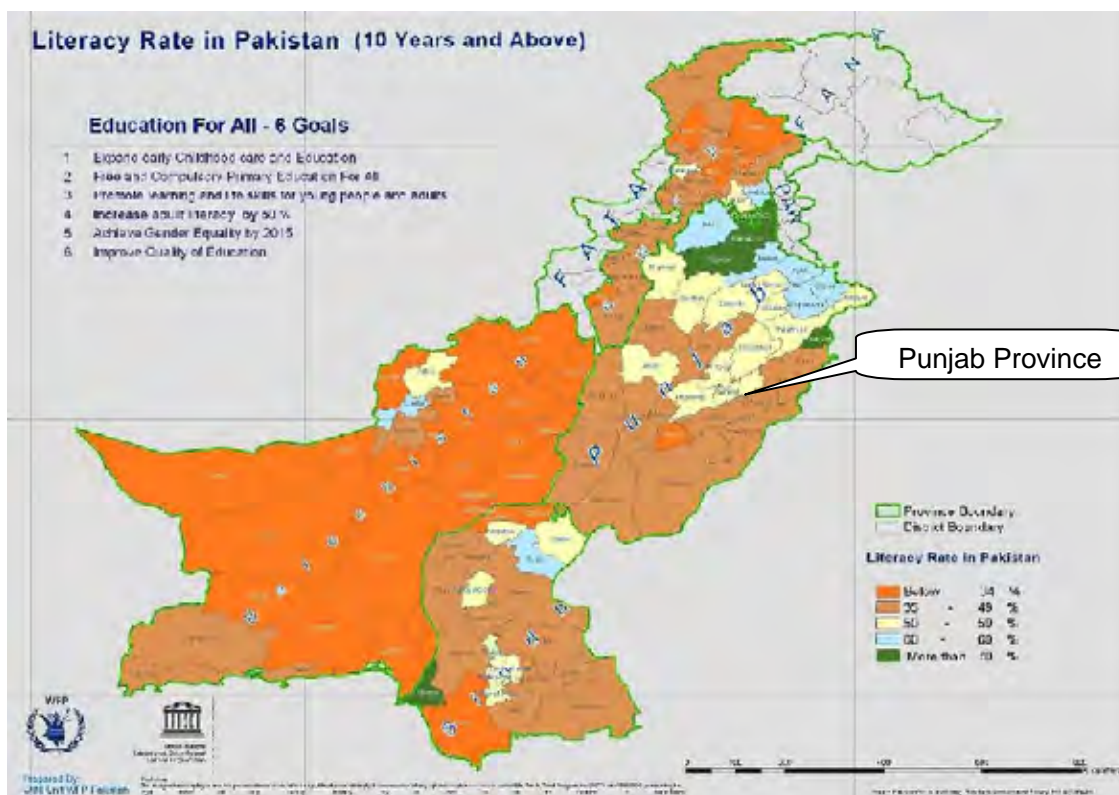
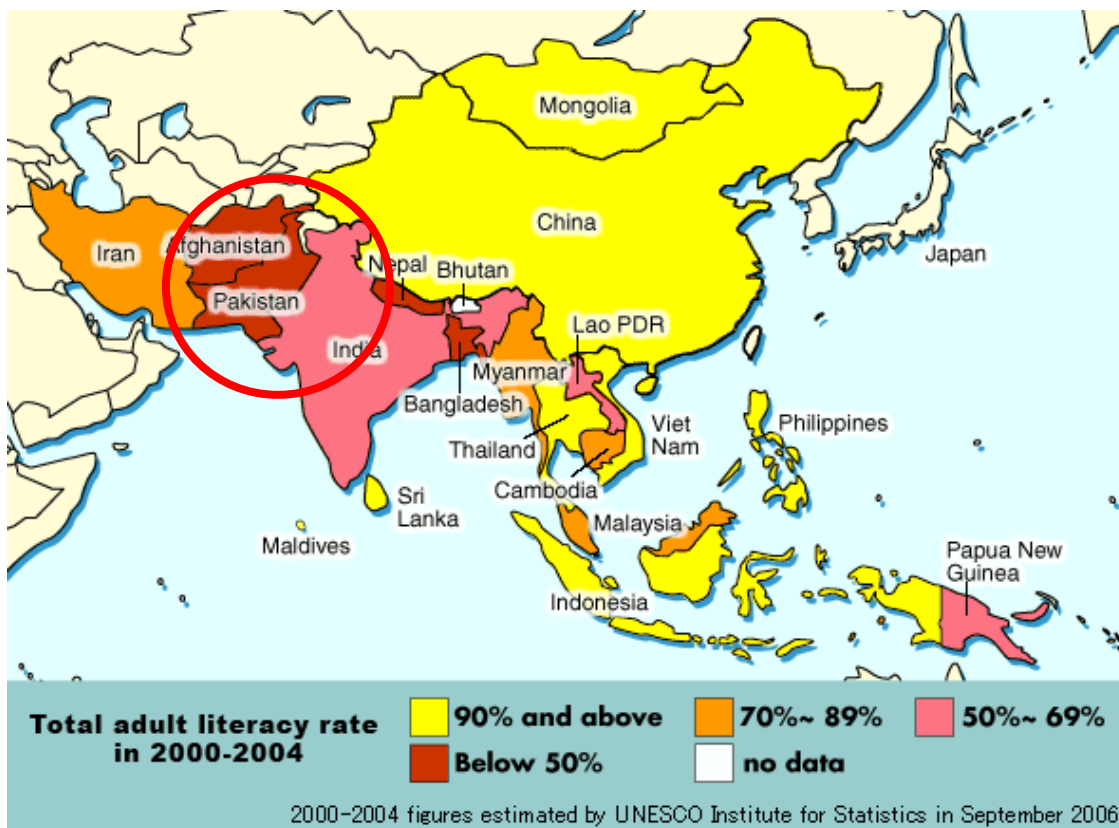
第4回運営指導調査報告書

平成23年3月

JICA パキスタン事務所

パキ事
JR
11-003

地图



写真



ノンフォーマル初等教育校(Non-Formal Basic Education School)の授業風景。約 30 名の複数の学年にまたがる学習者が公立学校の 1 から 5 年生のカリキュラムを学習する。公立学校では 5 年で学習するところを 3 年 4 ヶ月で学習する。基本的に教員は各学校 1 名。コース終了後に 5 年生試験に合格することができればフォーマル教育を受けることも可能。



ノンフォーマル初等教育校の外観。



成人識字教室の様子。15 歳以上の学習者を対象とした 6 ヶ月の識字教育を実施している。女性にとっては、普段家事や家業に時間を取られるため、また、社会的に家の外に出る機会が少ないため、成人識字教室は貴重な社会交流の場にもなり得る。単に識字になるというだけでなく、社会的尊厳を得る機会となる。



ラホール県の識字事務所。District Literacy Officer、Literacy Mobilizer、Compuer Operator 等からなる。NFEMIS を利用した Data-Driven Management を実践している。

略語集

ALC	Adult Literacy Center	成人識字センター
BECS	Basic Education Community School	初等教育コミュニティ校(NFE 支援)
CD	Capacity Development	能力開発
DLO	District Literacy Officer	県識字官
DSD	Directorate of Staff Development	職員研修機構
EDO, Literacy	Executive District Officer, Literacy	県識字行政官
EFA	Education for All	万人のための教育
HRD	Human Resource Development	人材開発
GIS	Geographic Information Systems	地理情報システム
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
LHW	Lady Health Worker	女性ヘルスワーカー
LNFBED	Literacy and Non-formal Basic Education Department, Government of the Punjab	パンジャブ州識字ノンフォーマル基礎教育局 (パンジャブ州識字局)
LitMIS	Literacy Management Information System	識字マネジメント情報システム
LM	Literacy Mobilizer	識字モビライザー
LP	Literacy Programme	識字プログラム (LNFBED 事業)
M/M	Minutes of Meetings	協議議事録
NCHD	National Commission for Human Development	国家人材開発委員会
NEF	National Education Foundation	国立教育基金
NFBE School	Non-Formal Basic Education School	ノンフォーマル初等教育校
NFE	Non-Formal Education	ノンフォーマル教育
NFEMIS	Non-Formal Education Management Information System	ノンフォーマル教育マネジメント情報システム
NGO	Non Governmental Organization	非政府組織
PC-1	Planning Commission Document 1	プロジェクト計画書 1
P & D	Planning and Development Board, Government of the Punjab	パンジャブ州計画開発局
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
PEC	Panjab Examination Committee	パンジャブ試験委員会
PLPP	Punjab Literacy Promotion Project	パンジャブ州識字行政改善プロジェクト
PO	Plan of Operation	活動実施計画表
Pre-STEP	Pre-Service Teacher Education Program	プレサービス教員研修プログラム(USAID)
R/D	Record of Discussion	合意議事録
TEVTA	Technical Education and Vocational Training Authority	技術教育・職業訓練庁
UC	Union Council	ユニオンカウンシル
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国連教育科学文化機関 (ユネスコ)
UPE	Universal Primary Education	基礎教育普遍化

目次

第1章 調査概要	2
1-1 調査団派遣の背景と目的	2
1-2 調査団の構成と調査期間	3
1-3 対象プロジェクトの概要	5
第2章 パキスタンにおけるノンフォーマル教育の位置づけ	6
2-1 教育セクター概観	6
2-1-1 純就学率と中退率	8
2-1-2 識字率	9
2-1-3 ノンフォーマル教育の重要性	10
2-1-4 ノンフォーマル教育において取り組むべき課題	11
2-1-5 18次憲法改正による地方分権化の加速	12
2-1-6 パンジャブ州におけるフォーマル教育（教育セクター改革）	12
2-2 パキスタンにおけるノンフォーマル教育の現況	14
2-2-1 連邦政府におけるノンフォーマル教育	14
2-2-2 パンジャブ州におけるノンフォーマル教育	17
2-2-3 JICA技術協力プロジェクトを通じた支援	24
2-2-4 PLPPフェーズ2の達成度及びインパクト	27
2-2-5 パンジャブ州におけるノンフォーマル教育の課題	31
第3章 新規案件概要	37
3-1 案件の概要	37
3-2 協議の過程	37
3-3 プロジェクトのフレームワーク	40
3-4 プロジェクト実施上の留意点	43
3-5 団長所感	45
別添資料	47
別添1 Minutes of Meeting	48
別添2 面談メモ	65
別添3 用語の解説	79
別添4 収集資料リスト	82

第1章 調査概要

1-1 調査団派遣の背景と目的

パキスタン国（以下「パ」国）においては、1991年時点での識字率34.9%が2005年には53%へと上昇している(2008年には56%)。しかしながら、未だに全人口の約半数が非識字という状態であり、この数字は低識字の人口が集中する南アジア諸国においても最低レベルである。このような実態に鑑み、「パ」国内で最大の人口を抱える東部のパンジャブ州では、地方分権化の機構改革の中で2002年8月に「識字・ノンフォーマル基礎教育局：Literacy and Non-Formal Basic Education Department（以下、州識字局）」を設立した。

州識字局では、公立学校にアクセスできない5-14歳の学齢期の子どもに対しノンフォーマル初等教育（Non-Formal Basic Education、5年生までのノンフォーマル小学校¹）を実施、また15-35歳向けの成人の識字教育（Adult Literacy、識字教室）、さらに初等教育を補完する就学前教育を実施し、識字率の向上を目指している。

JICAは州識字局の要請に基づいて、同識字局を実施機関とする技術協力プロジェクト「パンジャブ州識字行政改善プロジェクト（PLPP）」を2004年7月から2007年7月まで実施した。フェーズ1では識字マネジメント情報システム（LitMIS）が開発され、主にモデル4県（DGハーン、ハーネーワール、フシャーブ、マンディーバハーウッディーン）において、LitMISを活用したデータ活用型マネジメント（Data-Driven Management）によるノンフォーマル小学校および成人識字教室の開校・運営プロセスを示した。PLPP終了時には、州識字局が計画していたLitMISを他31県に展開するためには、州・県のさらなる能力強化が必要であることが確認された。

これらを背景に2007年8月末から「パンジャブ州識字行政改善プロジェクト・フェーズ2（PLPPフェーズ2）」を開始したものの、2008年2月の政権交代及び度重なる次官の交代の影響を受けて、JICAプロジェクトの活動目的が正確に把握されず、また組織体制が脆弱な州識字局と協力の枠組みを構築することが難しい状況に置かれたため、2008年3月にR/Dの修正を余儀なくされた。

その後、2008年12月に外部有識者による運営指導調査を実施し、①州および県政府の実施能力を鑑み、州・県が継続的に更新し持続的に活用できるよう、パイロットプロジェクトを通じてLitMISの改訂を行いその活用法をガイドラインにまとめる必要があること、②州識字局のみならずパンジャブ州他局、連邦関連機関、大学、国際機関、NGOなどのステークホルダーを巻き込み改訂版LitMIS²の活用法を共有することが持続性の担保につながる

¹ ノンフォーマル小学校はフォーマル小学校へのアクセスができない子ども、フォーマル小学校からドロップアウトした子どもを対象としている。休暇を短縮し、小学校5年分の教育を3年4ヶ月で実施できることが特徴である。

² 改訂版LitMISは次の2つのシステムを統合したもの。①センサス情報システム：人口、非識字者、潜在

こと、を確認し、プロジェクトフレームワークの見直しを行い、2008年12月にR/Dの更なる修正に合意した。

上記プロジェクトフレームワークの見直しを受け、2009年1月からは連邦、州、県およびステークホルダーとの協議を重ね、連邦教育省のノンフォーマル教育実施機関であるNEF（National Education Foundation）と協働でNFEMIS（Non-Formal Education Management Information System）を開発し、パイロット事業を通じてData-Driven Managementの促進に取り組んできた。具体的には、州、県、ユニオンカウンシル（県の下の行政区分）、村（ユニオンカウンシルの下の行政区分）のそれぞれのレベルにおいて、NFEMISを活用したノンフォーマル教育事業の適切な計画策定、運営・モニタリングに係る技術支援を行うと同時に、これらの活動にかかるガイドラインの策定を進めてきた。

2009年4月及び12月に再度運営指導調査が実施され、プロジェクトの課題解決、進捗等に関し有益なアドバイスがなされた。また、2010年4月には2010年8月の事業終了を見据えて終了時評価調査が実施された。終了時評価では、プロジェクト目標である「識字・ノンフォーマル教育活動の普及のためにNFEMISを活用する戦略を構築すること」が達成されつつあることが確認された。一方でプロジェクト目標の確実な達成及び州識字局を中心としたさらなる「データ活用型マネジメント」普及のための制度化及びその定着を促進するために、①州機関の能力強化、②州政府によるモデルプロジェクト実施支援及び実施ユニットの能力強化、③モデルプロジェクトにて対象とする4県以外の32県を対象としたNFEMISの普及、を目的として6ヶ月のプロジェクト延長（2011年2月まで）が提言され、関係者間で合意された。

今般、プロジェクトの終了を控え、プロジェクト期間延長による活動の達成度及びインパクトを確認するとともに、プロジェクト実施によって得られたノンフォーマル教育の課題を抽出し、2011年度より実施予定であるノンフォーマル教育に係る新規案件の枠組みをこれら課題を踏まえて策定することを目的として第4回運営指導調査を実施した。

1-2 調査団の構成と調査期間

(1) 調査団構成

団長	：	高橋 悟	JICA 国際協力専門員
ノンフォーマル教育	：	丸山 英樹	国立教育政策研究所 国際研究・協力部
協力企画	：	江崎 千絵	JICA 人間開発部基礎教育第一課
調査企画	：	佐伯 健	JICA パキスタン事務所
(調査監理	：	佐藤 俊也	JICA パキスタン事務所次長)
(ワークショップ支援	：	Nazia Seher	JICA パキスタン事務所)

的教員、学校ロケーションなどの情報を含み、ノンフォーマル小学校及び成人識字センターの設置に活用するシステム、②学校マネジメント情報システム：SMIS（学校マネジメント情報システム）、生徒の在籍・修了・中退・再入学などの情報を含み、ノンフォーマル小学校及び成人識字センターの運営に活用するシステム。

(2) 調査期間 平成 23 年 2 月 11 日 (金) ~2 月 28 日 (月)

			Appointment	Members	Accommodation
1	11-Feb	Fri	<i>Narita-BKK</i> 18:50 BKK- 22:25 ISB (TG349)	Takahashi, Esaki	ISB
2	12-Feb	Sat	9:00 Meeting with JICA 10:00 Meeting with Project and Curriculam Wings, MoE (Miistry of Education) 12:00 Meeting with NEF (National Education Foundation)	Takahashi, Esaki, Saheki, PLPP	ISB
3	13-Feb	Sun	Internal meeting	Takahashi, Esaki, Saheki, PLPP	ISB
4	14-Feb	Mon	09:00 Meeting with UNESCO 10:30 Meeting with NCHD (National Commission for Human Development) 11:30 Ministry of Education, Curricullam Wing 14:00 Meeting with AIOU 15:00 Meeting with PRE-STEP(USAID funded project) 20:00 ISB-20:55 LHR (PK657)	Takahashi, Esaki, Saheki, PLPP	LHR
6	15-Feb	Tue	09:00 Courtesy call to P&D (Planning & Development) 10:00 Meeting with LNFBED (Literacy and Non Formal Basic Education Department) 14:00 Meeting with DSD (Directorate of Staff Development)	Sato, Takahashi, Esaki, Saheki, PLPP	LHR
5	16-Feb	Wed	Internal meeting	Takahashi, Esaki, Saheki, PLPP	LHR
7	17-Feb	Thu	09:00 Site visit to NFE Schools 12:00 Meeting with TEVTA (Technical Education and Vocational Training Authority) 13:00 Site visit to NFE schools <i>Maruyama: Narita-BKK, 19:35 BKK - 22:50 LHR (TG345)</i>	Takahashi, Maruyama, Esaki, Saheki, PLPP	LHR
8	18-Feb	Fri	09:00 Meeting with PEC (Punjab Examination Commission) 11:00 Meeting with ED (School Education Department) <i>Esaki: 23:55 LHR - 6:20 BKK (TG346)</i> <i>Nazia: 17:45 ISB - 18:40 LHR (TG655)</i>	Sato, Takahashi, Maruyama, Esaki, Saheki, PLPP	LHR
10	19-Feb	Sat	Workshop Site visit to ALC (Adult Literacy Center) <i>Nazia: 15:30 LHR - 16:25 ISB (PK654)</i> <i>Esaki: BKK-Narita</i>	Takahashi, Maruyama, Esaki, Nazia, Saheki, PLPP	LHR
11	20-Feb	Sun	Internal meeting	Takahashi, Maruyama, Sato, Saheki, PLPP	LHR
12	21-Feb	Mon	10:00 M/M discussion	Takahashi, Maruyama, Saheki, PLPP	LHR
13	22-Feb	Tue	10:00 M/M discussion <i>Maruyama: 23:55 LHR - 6:20 BKK (TG346)</i>	Takahashi, Maruyama, Saheki, Sato	LHR
14	23-Feb	Wed	9:00 Singining of M/M <i>Takahashi, Saheki: 19:30 LHR - 20:25 ISB (PK622)</i> <i>Maruyama: BKK - Narita</i>	Takahashi, Saheki, PLPP	ISB
15	24-Feb	Thu	10:00 Meeting with JICA, EAD	Takahashi, Sato, Saheki	ISB
16	25-Feb	Fri	11:00 Report to EOJ Documentation work	Takahashi, Saheki	ISB
17	26-Feb	Sat	Documentation work	Takahashi, Saheki	ISB
18	27-Feb	Sun	<i>Takahashi: 23:55 LHR - 6:20 BKK (TG346)</i>		
19	28-Feb	Mon	Bangkok-Narita		

1-3 対象プロジェクトの概要

(1) 現行案件

案件名：パンジャブ州識字行政改善プロジェクト（フェーズ2）

実施機関名：識字・ノンフォーマル基礎教育局

協力期間：3.5年間（2007年8月～2011年2月（延長期間含む））

対象地域：パンジャブ州ラホール市、4パイロット県（ハネワール、クシャープ、DGハー
ン、マンディ・バハーウッドイー）

協力概算額：1.9億円

概要：

- | | |
|----------|---|
| 上位目標 | ノンフォーマル小学校と成人識字センターへのアクセス及び展開がパンジャブ州内のパイロット地域から他地域へと拡大する。 |
| プロジェクト目標 | パンジャブ州内にて識字・ノンフォーマル教育活動のために改訂版 LitMIS を活用する戦略が構築される。 |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1. 改訂版 LitMIS を活用した識字・ノンフォーマル教育活動のマネジメントが、パイロット活動を通じて強化される。2. 識字・ノンフォーマル教育活動への改訂版 LitMIS の活用およびマネジメントがステークホルダー間で共有される。 |

(2) 要請案件

案件名：ノンフォーマル教育推進プロジェクト

実施機関名：識字・ノンフォーマル基礎教育局

協力期間：4年間

対象地域：パンジャブ州ラホール市、3-4 県のパイロット県

概要：

- | | |
|----------|--|
| 上位目標 | パンジャブ州にてノンフォーマル教育のアクセスと質が改善される。 |
| プロジェクト目標 | パンジャブ州にて質の高いノンフォーマル教育提供システムが強化される。 |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1. 教育環境と教員のスタンダードが設定される。2. 成人識字教育とノンフォーマル初等・基礎・中等教育の学習者のスタンダードとカリキュラム（学習内容）がレビューされ、改善される。3. 学習者のアセスメント手法及びアセスメントツールが開発される。4. ノンフォーマル教育提供者の認定制度及びフォーマル教育との同等性システムが開発される。 |

第2章 パキスタンにおけるノンフォーマル教育の位置づけ

2-1 教育セクター概観

パキスタンは約1.7億人(世界第6位)の人口を擁する。人口統計によると1998年に53.1%であった15歳未満及び65歳以上の人口は、2004年に総人口の42.7%に減少しており、2015年にはさらに減少し38.3%になると予想されている³。しかしながら、表1が示すとおり基礎教育の対象年齢である5-9歳の人口と0-4歳の人口とを比較しても減少傾向は確認できず、横ばいに推移している。パキスタンの5-9歳の人口はわが国の当該年齢人口の3倍以上に相当する。

パキスタンの識字率は2008-09年の時点で57%、粗初等就学率⁴は91%、純初等就学率⁵は57%⁶に留まっており、教育開発指標の低い南アジア諸国の中でも、各指標において最低レベルにあるといえる⁷。パキスタン政府は各種政策文書において、教育開発を優先分野と位置づけて取り組んでおり、改善傾向にあるものの、依然、他国と比較すると各種指標は低い状態が続いている。

表1 パキスタン国 推定人口(2010年)

Age groups	Pakistan	Punjab	Sindh	Khyber Pakhtun-khwa	Baluchistan	FATA	ICT
0-4	18,350,610	9,689,333	3,916,104	2,840,858	1,155,757	600,912	147,646
5-9	18,268,540	9,839,801	4,024,383	1,690,141	1,062,491	520,822	130,903
10-14	19,216,671	10,387,959	4,359,338	2,831,232	1,073,632	450,776	113,734
15-19	19,399,710	10,491,955	4,413,374	2,883,081	1,072,031	440,329	98,939
20-24	17,974,079	9,792,985	4,056,946	2,571,452	932,624	504,608	115,463
25-29	15,961,330	8,897,996	3,659,147	2,236,905	799,577	222,043	145,662
30-34	13,080,750	7,255,722	3,072,998	1,713,992	633,107	300,192	104,739
35-39	10,543,290	5,874,756	2,547,052	1,315,556	501,577	213,081	91,267
40-44	8,391,930	4,681,944	2,069,911	1,002,838	394,274	161,736	81,227
45-49	6,638,270	3,708,725	1,653,307	770,114	307,317	128,955	69,853
50-54	5,261,500	2,951,226	1,304,739	613,307	236,152	100,586	55,490
55-59	4,148,690	2,342,821	1,006,287	493,827	180,362	82,411	42,982
60-64	3,281,690	1,877,370	762,197	401,537	137,601	70,202	32,783
65-69	2,518,850	1,460,230	563,895	311,355	101,182	58,458	23,729
70-74	1,854,059	1,094,863	398,989	225,850	71,424	45,035	17,897
75-79	1,259,293	736,962	255,711	144,475	45,073	55,036	22,035
80+	1,218,928	812,565	186,366	173,007	46,990		
Total	167,368,190	91,897,213	38,250,744	22,219,527	8,751,171	3,955,182	1,294,349

(Education For All (Facts & Figures))

³ National Education Policy 2009, Ministry of Education, Government of Pakistan

⁴ 年齢に関わらず初等教育に就学する子どもの人数が、公式の初等教育就学年齢に相当する子どもの総人口に占める比率。

⁵ 公式の初等教育就学年齢に相当する子どもであって初等学校に就学する子どもの人数が、当該年齢の子どもの総人口に占める比率。

⁶ Pakistan Social and Living Standards Measurement Survey (PSLM) 2008-09

⁷ 初等教育総就学率：パキスタ：男101% 女83%、スリランカ：男108% 女108%、インド：男114% 女109%、ネパール：男127% 女126%。中等教育総就学率：パキスタ：男37% 女28%、スリランカ：男86% 女88%、インド：男59% 女49%、ネパール：男46% 女41%。(出典：世界子供白書 特別版 2010、UNICEF)

パキスタンでは教育機会の保障は憲法第 37-B で保障されており、非識字の撲滅に加え、後期中等教育までの無償かつ義務教育をうたっている。また、2010 年 4 月に改正された 18 次憲法では、更に「5-16 才の児童への無償かつ義務教育の提供」を行っていくことが追記された。

パキスタン政府は、2009 年に国家教育政策 2009 を策定している。同政策では、就学前、基礎および中等教育、ノン・フォーマル教育へのアクセスの改善、教育の質の改善（教員養成・研修の改善、カリキュラム・教科書改訂、試験の改善、教育インフラ環境の改善を通して改善等）、2015 年までに教育予算を GDP 比 7% まで増加させることをうたっている。また、同政策は時限なしとなっており、この政策をもとに、各州において実施計画を策定し、実行に移していくプロセスにある。

教育予算は増加傾向にはあるが、GDP の 2% 前後に留まり、国家教育政策 2009 において設定されている目標値 7% に達するまでの大きな伸びは見られない。恒常的な予算不足である一方、20-30% の予算は未消化に終わっており、少ない教育予算も十分に活用されていない状況にある。なお、UNESCO は GDP の 6% を教育予算にあてるよう推奨している。

表 2 対 GDP 教育予算

2006-2007	2.50%
2007-2008	2.47%
2008-2009	1.25%
2009-2010	2.10%

(LNFBD プレゼンテーション資料)

2-1-1 純就学率と中退率

パキスタン国全体にみる初等教育、前期・後期中等教の現状を以下に示す。男女格差及び地域間格差が見られる。

表3 パキスタン国 小学校 (Classes 1-5) 純就学率

REGION AND PROVINCE	NET PRIMARY LEVEL ENROLMENT RATE (PERCENT)								
	2004-05 - PSLM			2006-07 PSLM			2008-09 - PSLM		
	MALE	FEMALE	BOTH	MALE	FEMALE	BOTH	MALE	FEMALE	BOTH
URBAN AREAS:	66	63	64	67	65	66	68	67	68
Punjab	69	68	68	69	70	70	72	72	72
Sindh	64	59	61	67	61	64	64	62	63
Khyber Pakhtunkhwa	58	52	56	59	53	56	65	56	61
Balochistan	59	53	56	58	49	54	61	56	59
RURAL AREAS:	53	42	48	57	46	52	58	48	53
Punjab	57	50	54	62	55	59	61	55	58
Sindh	45	29	38	49	31	41	53	40	47
Khyber Pakhtunkhwa	52	37	45	56	39	48	57	43	50
Balochistan	41	24	33	46	28	38	49	31	40
OVERALL:	56	48	52	60	51	56	61	54	57
Punjab	60	55	58	64	59	62	64	60	62
Sindh	53	42	48	56	43	50	57	49	54
Khyber Pakhtunkhwa	53	40	47	56	41	49	58	45	52
Balochistan	44	29	37	49	32	41	51	36	44

NOTES:

1. Net enrolment rate: [Number of children aged 5 - 9 years attending primary level (classes 1-5) divided by number of children aged 5 - 9 years] multiplied by 100. Enrolment in katchi is excluded.
2. Numerator of NER: Raised sum of all individuals aged 5 - 9 years who report currently attending primary level.
3. Denominator of NER: Raised sum of all individuals aged 5 - 9 years who respond to the relevant questions.

(PSLM2008-2009, Statistics Division, Government of Pakistan, 2010.5)

さらに、初等教育、前期中等教育及び後期中等教育の就学者数、学校数を見ると、前期中等教育以降への進学者数が低く、前期中等教育においては公立学校の数が限定的であることが特徴としてあげられる。

表4 初等教育(Primary)の施設数と就学者数

	学校数 (校)	就学者数 (百万人)	教員数 (人)
公立学校	138,315	12.076	345,242
私立学校	17,512	5.136	89,335
公立+私立合計	155,827	17.211	434,577
	男	9.633 (56%)	232,156 (53%)
	女	7.578 (44%)	202,421 (47%)
ノンフォーマル学校	14,000	約4百万人	-
Deeni Madaris	20,000	-	-

(パキスタン国家識字&ノンフォーマル基礎教育計画 2010-2015)

表 5 前期中等教育（Middle）の施設数と就学者数

	学校数（校）	就学者数（百万人）	教員数（人）
公立学校	15,963	3.662	122,100
私立学校	25,224	1.689	201,835
公立+私立合計	40,917	5.531	323,935
男子		3.076（57%）	
女子		2.275（43%）	

（パキスタン国家識字&ノンフォーマル初等教育計画 2010-2015）

表 6 後期中等教育（Secondary）の施設数と就学者数

	学校数（校）	就学者数（百万人）	教員数（人）
公立学校	10,056	1.783	178,401
私立学校	14,266	0.712	201,667
公立+私立合計	24,322	2.495	380,068
男子		1.450（58%）	
女子		1.045（42%）	

（パキスタン国家識字&ノンフォーマル基礎教育計画 2010-2015）

上記のように、低い純就学率に加え、中退率の高さも重要な課題となっている。JICA基礎教育分野基礎調査報告書⁸によると、就学者の30-50%が5年生になるまでに中退していると言われており、高い中退率の原因・理由として以下のとおりにとまとめられている。

【内的要因】

- ・ 学校における施設整備の不足
- ・ 学生の能力以上の教科書やカリキュラム

【外的要因】

- ・ 親の貧困
- ・ 親の教育の価値に対する無理解

2-1-2 識字率

パキスタン国における、識字率は54%（15歳以上）と南アジア地域の中でも低い。10歳以上の人口の識字率は57%⁹であり、これは人数にして5,622万人の非識字者が存在することになる。さらに、男女格差（男性69%、女性45%）に加え、国内における地域間格差

⁸ パキスタン・イスラム共和国基礎教育分野基礎調査報告書(JICA, 2004)

⁹ ただし、連邦教育省発行のEFAパンフレットによれば、2007-08年の15-24歳の識字率は69.5%（男性78.5%、女性60.5%）であり、若年層の識字率は約7割に達している。

(パンジャブ州 59%、バロチスタン 45%) 及び都市と農村の格差 (都市 74%、農村 48%) も存在する。

表 7 : 南アジアにおける教育に関連する指標 (2007)

	Gross Enrollment Rate Primary (2007)	Adult Literacy Rate 15+ age group (2007)	Educational as % of GDP	Ranking in adult literacy
モルディブ	121	97	8.3	1
スリランカ	108	91	-	2
インド	112	66	3.2	3
ネパール	124	57	3.8	4
パキスタン	92	54	2.8	5
ブータン	111	53	5.8	6
バングラデシュ	91	53	2.4	6
アフガニスタン	103	28	-	7

(Global Monitoring Report 2010)

表 8 パキスタン国 識字率 (10 歳以上)

REGION AND PROVINCE	PERCENTAGE OF POPULATION 10 YEARS AND OLDER (PERCENT)								
	2004-05-PSLM			2006-07-PSLM			2008-09-PSLM		
	MALE	FEMALE	BOTH	MALE	FEMALE	BOTH	MALE	FEMALE	BOTH
URBAN AREAS:	78	62	71	79	65	72	81	67	74
Punjab	78	66	72	79	68	73	82	71	76
Sindh	80	62	72	80	65	73	81	65	73
Khyber Pakhtunkhwa	75	47	61	75	46	61	76	48	62
Balochistan	74	42	60	76	42	61	78	47	64
RURAL AREAS:	58	29	44	60	30	45	63	33	48
Punjab	59	35	47	61	38	50	63	39	51
Sindh	56	18	38	52	16	36	61	22	43
Khyber Pakhtunkhwa	61	23	41	65	24	44	67	27	47
Balochistan	47	13	32	52	15	35	57	16	38
OVERALL:	65	40	53	67	42	55	69	45	57
Punjab	65	44	55	67	48	58	69	50	59
Sindh	68	41	56	67	42	55	71	45	59
Khyber Pakhtunkhwa	64	26	45	67	28	47	69	31	50
Balochistan	52	19	37	58	22	42	62	23	45

NOTES:

1. Population aged 10 years and older that is literate expressed as a percentage of the population aged 10 years and older.
2. Literacy: For all surveys, literacy is taken as the ability to read a newspaper and to write a simple letter.

(PSLM2008-2009, Statistics Division, Government of Pakistan, 2010.5)

2-1-3 ノンフォーマル教育の重要性

パキスタンでは膨大な人口を抱える中、フォーマル教育のサービスが追いついていない状況である。また、教育の質の問題や文化的・社会的な背景もあり、低い就学率、高い中退率等を招いている。よって、MDGやEFA達成のためには、ノンフォーマル教育が果たすべき役割は大きく、フォーマルセクターからの取り組みだけでなく、公立学校の約3分の1

の就学者を擁するノンフォーマル教育からの取り組みも同時に必要である¹⁰。

2-1-4 ノンフォーマル教育において取り組むべき課題

パキスタン国政府としてもノンフォーマル教育の重要性を認識しており、国家教育政策 2009 では、識字・ノンフォーマル教育において取り組むべき以下の 4 つの主要な課題が掲げられている。また、これらの課題に基づき、15 か条の政治的に取り組むべき活動を定めている。

【課題】

- 1) 識字・NFE プログラムの質にばらつきがあり、最低限のスタンダードが必要。質の低いサービスの要因のひとつとして教員の能力不足及び教員に求められる能力が規定されていないことが挙げられる。
- 2) 証明・認定制度がなく、またアセスメントを行うためのスタンダードもないため、識字・NFE プログラムにおいて証明書が発行されてもフォーマル教育につなげることが困難。
- 3) 識字教育が雇用に効果的につなげていない。
- 4) 識字プログラムの効果が認識されていない。

【取り組むべき活動】

- 1) 2015 年に識字率を成人識字教育及びノンフォーマル基礎教育を通じて 86%まで上げること
- 2) 組織体制の強化、適正予算の配賦を通じた成人識字教育及びノンフォーマル教育の持続性の確保
- 3) 識字教育のカリキュラム及びそれを補足する資料、教員研修用モジュール等の整備
- 4) ノンフォーマル教育提供者が満たすべきスタンダードの設定とそれに基づく認定制度の構築
- 5) フォーマル教育へのメインストーリーミングを担保するための同等性システムの開発と開発されたシステムに基づく承認制度の構築
- 6) 州及び県政府は最低 4%の予算を識字・ノンフォーマル基礎教育に配分すること
- 7) ノンフォーマル教育と産業及びインターンシッププログラムとをつなぐこと
- 8) 学校と職業訓練センターとの水平のつながりが整備されること
- 9) 政府の学校は若年労働者のスケジュール等を勘案して、教育を提供できるようにすること

¹⁰ ちなみにパンジャブ州では全小学校に占めるフォーマル校数は 65%、ノンフォーマル校数は 35%である。またフォーマル校に通う児童数の割合は 84%、ノンフォーマル校に通う児童数のそれは 16%である。これらの数値は比較的小規模な人数を受け入れるノンフォーマル校が数多く存在していることを示している。

- 10) NEF の 5 年生までの活動を必要に応じて 10 年生にまで拡大すること
- 11) 14～17 歳の青年労働者に対する技術訓練も含めた識字教育を提供すること
- 12) 成人識字教育のために学校施設を夜間に提供すること
- 13) ノンフォーマル教育プログラム提供後のガイドラインを策定し、プログラム修了者のフォローアップを行うこと
- 14) 成人識字教育及びノンフォーマル基礎教育の教員に適切な研修が施され、フォーマル教育の教員になるためのキャリアとしてノンフォーマル教育が定義づけられること
- 15) 開発パートナー、コミュニティ及び民間セクターを啓発プログラムや教育内容、施設整備に関与させること

2-1-5 18 次憲法改正による地方分権化の加速

2010 年 4 月の 18 次憲法改正に基づき、連邦政府が担っていた立法権限の多くが廃止・改定され、州政府の自立性が拡大することになっている。現在、連邦政府からの更なる権限委譲が進められており、2011 年 6 月までには州への権限移譲がなされる予定である。教育セクターにおいても以下の業務が州政府に引き渡されることとなっている。一方で、連邦政府の今後の役割や権限委譲する内容の妥当性については引き続き議論が残っており、先行きは不透明であると言える。

- カリキュラムの策定
- シラバスの策定
- 計画策定
- 政策策定
- センターオブエクセレンスの設置
- 教育スタンダードの設置

2-1-6 パンジャブ州におけるフォーマル教育（教育セクター改革）

パンジャブ州は、パキスタン国内で最大の人口を擁す（2010 年推定人口約 91.9 百万人、Education for All Facts & Figures）。州内の識字率（10 歳以上）は全体で 59%¹¹であり、パキスタン全体の識字率 57%よりはやや高い。純就学率は 62%（2008-2009）となっており、45%（2001-2002）からすると改善は見られるものの、未だ純就学率の向上は大きな課題である。

パンジャブ州では 2003 年から教育セクター改革を進めており、この実施にあたっては世界銀行が支援をおこなってきた。2009 年からは Punjab Education Sector Project として 3 年間 350 百万ドルの借款を行っており、DFID も協調融資で 67 百万ドルの支援を行ってい

¹¹ PSLM2008-2009, Statistics Division, Government of Pakistan, 2010.5

る。このプロジェクト資料によると、教育セクターリフォームの取り組みの結果、上述のとおり純就学率の向上などに改善がみられ、女子に関していえば、**43%(2001-2002)**から**59%(2006-2007)**へと改善している。他方で、都市-地方間の格差（特に貧しい家庭）は依然として大きいことが指摘されている。

また、高い中退率や低い進学率（前期中等純就学率 **20%**、後期中等純就学率 **11%**）、劣悪な学校施設や機能していない学校が多いといった問題は依然として残っている。なお、女子の就学に関しては、学校への距離が大きな壁となっているといわれており、**500m** 離れるごとに女子の就学が **20%**落ちるとされている。

また、以下の要因が教育の質の低下を招いていると分析されている。

- 教員の能力が低い：現職教員研修はあるものの、中身が弱い。教員の定期的なアセスメントシステムが不在
- 教員の欠席率が高い
- 時代遅れの教材と不適切なカリキュラムと教科書：指導書や教材がない
- 時代遅れの教授法：暗記中心、テスト至上主義。複式学級への対応
- 不適切な教材・教具：教科書の質が低い

このような現状に対し、**Punjab Education Sector Project** では以下を目的に主に2つのコンポーネントからなる支援している。質の改善は途上であり、学習者の達成度にはまだ現れていないとのことである。

【目的】

- 1) 財政の持続性と教育を含む公教育セクターの支出の効率性の促進
- 2) 学校教育の質の向上
- 3) 出席率・修了率の改善と男女間・地域間格差の縮小を通じたアクセスの改善と拡大
- 4) 教育セクターにおける学校運営及びガバナンスの強化

【主な支援項目】

コンポーネント1 パンジャブ州教育セクター改革への融資

1-1 教育セクターの支出促進と借入れ環境の改善

1-2 教育の質と妥当性の改善

教員訓練、良質な教材開発、教員認定システム、学校へのインセンティブ

1-3 アクセスと平等

テキストの無償配布（Level1-10）、女子手当、空席ポストへの教員配置、施設改善、初等・中等学校のアップグレード、私立学校設立の推進

1-4 学校マネジメント及びガバナンスの改善

教員のコミュニティに対する説明責任の向上、学校委員会の能力向上、ニーズに基づく透明な教員雇用等

コンポーネント2 技術支援

- コンポーネント1の活動のための技術支援等

2-2 パキスタンにおけるノンフォーマル教育の現況

2-2-1 連邦政府におけるノンフォーマル教育

連邦政府においてノンフォーマル教育に関連する主な組織は、教育省と教育省傘下の National Education Foundation (NEF)、大統領直轄の組織である National Commission for Human Development (NCHD)、アラマ・イクバル公開大学の 4 者が存在する。

(1) 教育省

教育省はプロジェクト部門及びカリキュラム部門において、成人識字の教材を各地の成人識字教室に配布するために開発している。

教育省は 2010 年 12 月に「パキスタン国家識字・ノンフォーマル基礎教育計画 2010-2015」を UNESCO の支援を受けて策定し、以下のとおりノンフォーマル教育に関する課題と戦略が示されている。しかしながら、連邦政府と州政府の連携は必ずしもスムーズではなく、計画や戦略を策定しても相互の連携不足により実効性は弱い。実際に、18 次憲法改正に基づく教育の地方分権化の流れもあり、この計画と戦略の採用については州に一任されているのが現状である。教育省は、連邦政府によって開発された教材やカリキュラムはあくまで「モデル」であるとしており、これらを参考に州が独自に教材やカリキュラムを作成することになるとの見解を示している。

なお、策定に関わった教育省スタッフによると、本国家計画は成人識字教育に焦点が置かれており、ノンフォーマル基礎教育への記述が少ないと指摘されている。

【課題の概略】

- 成人識字の重要性に関する意識不足
- 成人識字における政治的な意思、政策の一貫性の欠如
- 人的資源、財源の不足
- 強いコーディネーションと組織構造の不在
- 成人識字の専門基盤が効果的でない
- 草の根レベルでのモニタリングメカニズムが強化されていない。
- 人口増、コミュニティや市民坂の参加の欠如：内容が学習者のニーズに合っていない。
- 蔓延する貧困・経済危機
- 効果的な官民連携の不在

【戦略】

- 1) アドボカシー：大規模な意識向上・アドボカシー・キャンペーンの実施
- 2) 政治的な意思：国・州・郡レベルの議員によるフォーラム等の設置
- 3) 予算：国家教育政策 2009 に示すとおり、GNP の 4%まで教育予算を増やすこと。内、10%は識字とノンフォーマル基礎教育プログラムにあてられるべき。ドナーも

同様の予算配分を行うことが要求されるべき。

- 4) 組織：国・州・郡レベルでの識字・ノンフォーマル教育部局の設置と能力強化。
- 5) 無償義務教育：無償義務教育の実行。
- 6) 識字法の実施：識字法 1987 の復活と実施。
- 7) 識字プログラムの質と妥当性：識字プログラムの質の改善（教員の能力、教員の待遇改善、魅力的・包括的な教材開発と配布、効果的な監督・モニタリング、試験・アセスメント・認定、ニーズベースの基礎識字・機能識字・技術識字プログラムの実施）
- 8) 研究：研究の促進（現行及び将来のニーズ・必要性、教授法・技術、効果的な教科書・教材等）
- 9) 識字リソースセンター：研究、教材、トレーニング、試験・アセスメント・認定、アドボカシーユニットからなるセンターの設置（国・州・郡）
- 10) 識字データベース：識字 MIS（定量的・定性的な指標を含む）の設置
- 11) 官民連携：NGO、I-NGO 等との連携（共同の計画・実施・マネジメント等）
- 12) モニタリングと評価：効果的なモニタリング・評価システムの構築

(2) National Education Foundation

NEF は 1994 年の閣議決定により設立され、各州及び連邦直轄地域の 6 つの事務所、県レベルの 65 支所によって運営されている組織である。弱者に対する基礎教育提供を支援しており、主な活動として Basic Education Community Schools (BECS) の設立及び運営があげられる。これは教育省により 7,000 百万ルピーの予算配賦を受けて実施しているプロジェクトであり、2012 年 6 月 30 日まで実施される。これまで 15,101 校の BECS が設立され、561,472 人の非就学者に対して教育を提供している。BECS の教員には、雇用時に 2 週間の研修を行っている。また、年 1 回のリフレッシュコース（1 週間）を計画しているが、予算不足により実施されていない。教員訓練は各郡のマスタートレーナーや選定された公教育の教員が講師となっている。BECS の学習者から 5 年生の公教育の試験の合格率は 85-90%であるが、全体の就学者数から見ると受験生は 10%程度である。進学者数の追跡はなされていない。ギルギット・パロチスタンにおいては、ノルウェーの支援によって建設された施設を BECS として利用しているが、これらをフォーマル学校に移行させる動きもある。

NEF はノンフォーマル教育活動に係るモニタリングを独自に開発した Education Management Information System (EMIS) を利用して行っていたが、PLPP フェーズ 2 の支援により、JICA の LitMIS と EMIS とを統合させた NFEMIS の利用を開始している。詳細については 2-2-4 (3) に後述する。

未だ正式な発表はなく確定的な情報ではないが、18 次憲法改正の影響により、NEF が各州で実施している活動はそれぞれの州に移譲される予定である。NEF は連邦政府直轄地域

であるギルギット・バロチスタンとアザド・カシミール、連邦直轄部族地域に対するサービスを実施することになるとのことである。

(3) National Commission for Human Development

NCHD は 2002 年に、人的開発支援及び改善のために設立された組織である。「国民全員に対し基礎教育と保健施設を政府が提供する識字かつ健康な国家」をビジョンとして掲げており、教育に関しては **Universal Primary Education** と成人識字教育に関する活動を全国 144 県において提供している。

前者に関しては、就学改善プログラムとして、世帯調査の実施、中退者や機能していない公立校に関する調査を行い、13,000 校の **Feeder School** の設立や教員研修を通じて教員の配置に取り組んでいる。

後者の成人識字教育に関しては、主に女性を対象とした識字教育プログラムを実施している。提供しているプログラムの期間は 6 ヶ月で、3 年生に相当する能力を習得できる。これらのプログラムの学習者のアセスメントは 1 プログラムの間で 4 回行われており、ベースラインとセッション（教科書が 3 つのセッションに分割されている）ごとのアセスメントが実施される。アセスメントは A から E の 5 段階を基準に行われ、D 及び E と評価された学習者は修了書を得ることができない。

NCHD は、ポストリテラシーのプログラム作成やコミュニティラーニングセンターの支援も実施している。また、リソースセンターを有しており、ノンフォーマル教育における教材開発、能力強化、研究開発にも取り組んでいる。他にも民間連携活動として、私企業によるボードメンバーを構成し、**Pakistan Human Development Fund** を運営している。設立以降、30 百万 Rs の金額がファンドとして集められている。

18 次憲法改正による影響について調査団より問い合わせたところ、ノンフォーマル教育の提供は各州が担っていくことになるであろうとの回答があったものの、具体的な組織改変については言及がなかった。

(4) アラマ・イクバル公開大学

アラマ・イクバル公開大学(AIOU)は、高等教育委員会 (Higher Education Commission) の統括のもと、パキスタン全土に対して遠隔教育を実施しており、正規教育を受ける機会に恵まれない社会的弱者および地方農村部の教育アクセスが困難な人々を含め、パキスタン国民に対して広く、安価でアクセスの容易な教育機会を提供する重要な教育機関である。毎年増加傾向にある受講生数は現在 100 万人を超え、約 120 の学位プログラムを有しているほか、非識字者・準識字者向け機能コース、中等教育卒業資格取得コース、教員資格取得コース等を含む約 1300 のコースを提供している。

現在 AIOU では以下の 5 つのプログラムを試行的に提供している。

- 1) Basic Function Education
- 2) Women Basic Education

- 3) Women Middle Education
- 4) Secondary Education
- 5) Short-term Education

Women Middle Education は、パキスタン国内で数少ないノンフォーマル中等教育を提供している数少ないコースの1つである。その実績は以下のとおり。

パンジャブ州（2004-2008）・バロチスタン州（2008-2011）の2州に各10箇所ずつセンターを設営し、250名の生徒が学んだ(12-25才)。センターは放課後のフォーマルスクールを活用した。教員は12学年卒業が資格となっているが、地域の女性を雇用するため、場所によっては10学年卒業生の場合もある。教員は、2週間のトレーニングを学期が始まる前に受講する。教員研修にはAIOU以外に他大学のリソースや現職教員と連携して実施した。

入学資格にG5国家試験を合格している必要はなく、合格していない場合は7学期3ヵ年、合格していれば6学期間の授業を受けることになる。カリキュラムはフォーマルに沿っているが、シラバスや教科書は学習者のニーズに従って改訂した。(6つの義務教科：ウルドゥ、英語、イスラム教、社会、数学、生活科学に加え、2つの技術を中心とした授業が教えられる。) 学習者250名の内、上述Secondary Educationへ進学したものが20名、その他フォーマルセカンダリーに進学したものもいる。

また、上記パイロット事業とは別に、バロチスタンでは、レディヘルスワーカーの資格要件であるミドルスクール卒業生が少ないことから、保健省からの要請でレディヘルスワーカー育成のための女性対象の18ヶ月(3学期)のコースも提供し、80名の生徒が学んだとのことである。

2-2-2 パンジャブ州におけるノンフォーマル教育

(1) 実施体制

パンジャブ州は、パキスタン国内において唯一教育省から独立した識字・ノンフォーマル基礎教育局(Literacy and Non-Formal Basic Education Department、LNFBED)を2002年に設置している¹²。州識字局は主に非識字者の減少と、ネグレクトされているグループ、すなわち5-14才の中退者や1回も学校に行けてない児童、そして15-35才の成人非識字者への教育機会の提供を推進している。

州識字局が提供するノンフォーマル教育はすべてPC-1の承認に基づくプロジェクトによって行われている。提供しているノンフォーマル教育は主に2種類に大別される。

ノンフォーマル初等教育： 5-14歳を対象とし、フォーマル教育における1-5年生までの教育を40ヶ月で行うプログラム(フォーマルは60ヶ月)。場

¹² したがって、パンジャブ州には教育局(School Education Department)と識字・ノンフォーマル初等教育局(LNFBED)があり、前者がフォーマル教育を管轄している。

所はノンフォーマル教育校（主に教員の自宅又はコミュニティが提供するスペースを利用）。

成人識字教育： 15歳以上を対象とした6ヶ月間の識字教育。場所は成人識字学校（主に教員の自宅又はコミュニティが提供するスペースを利用）。

現時点で実施されている識字局予算によるプロジェクトは表9のとおり。

表9 識字局が実施しているプロジェクト一覧

	名称	対象	プロジェクト概要
1	Literacy Programme	32 県 (Khanewal, Khushab, Dera Ghazi Khan and Mandi Bahauddin 以外)	【内容】10 ユニオンカウンシルを各県から選定し、NFBE 学校と成人識字教室を 200 校ずつ開校する。 【期間】2005/9/19-2011/7/31 【金額】Rs.1754.130 百万
2	Model Districts of Literacy Campaign to Achieve 100% Literacy	4 県 (Khanewal, Khushab, Dera Ghazi Khan and Mandi Bahauddin)	【内容】2475 成人識字教室の開講。現況調査（マッピング、ニーズアセスメント）。アドボカシー、ソーシャルモービライゼーション等。 【期間】2004/05-2013/14 年度 【金額】Rs.720.809 百万
3	Punjab Literacy and Livelihood Programme	2 県 (Dera Ghazi Khan and Multan)	【内容】成人識字教育にインセンティブを付与するための識字教育と職業訓練の提供。 【期間】2009/10 年-2010/11 【金額】Rs.135.713 百万
4	Establishment of 275 Adult Literacy Centres & 275 NFBE Schools at Brick Kilns	2 県 (Khanewal and Multan)	【内容】275 の成人識字教室と 275 の NFBE 学校を焼きレンガ工場に併設。 【期間】2009/10-2013/14 年度 【金額】Rs.109.884 百万
5	Community Learning Centres (CLCs) Project	全 36 県	【内容】各県に 10 校の CLC を開校する。 【期間】2009/10-2010/11 年度 【金額】Rs.38.163 百万
6	Capacity Building of the Department	LNFBED	【内容】R&D(研究開発)、MIS、M&E（モニタリング評価）、HRD（人材開発）部門の新設を通じた LNFBED のキャパシティディベロップメント。 【期間】2009/10-2011 【金額】Rs.48.801 百万

州及び県の行政組織としては図 1、2 のとおりとなっている。パンジャブ州内の非識字者撲滅という大きな課題に向けた組織体制としては脆弱である。県識字官以下、識字モビライザー、コンピューターオペレーターはプロジェクト雇用の人材であり、厳密には行政官ではない。¹³

なお、上述の“Capacity Building of the Department”プロジェクトによって 46 人のスタッフが配置されることがパンジャブ州政府によって承認されていたが、2010 年の洪水の影響により政府へのすべての新規雇用はパンジャブ州の筆頭次官が議長を務める委員会の承認を追加で得なければならないことになり、Capacity Building Project において承認されていた人員配置は 5 人に留まった。しかしながら、州識字局の努力もあり、46 人の人員配置のうち、22 名分の追加の人員配置が 2011 年 2 月に承認されている。

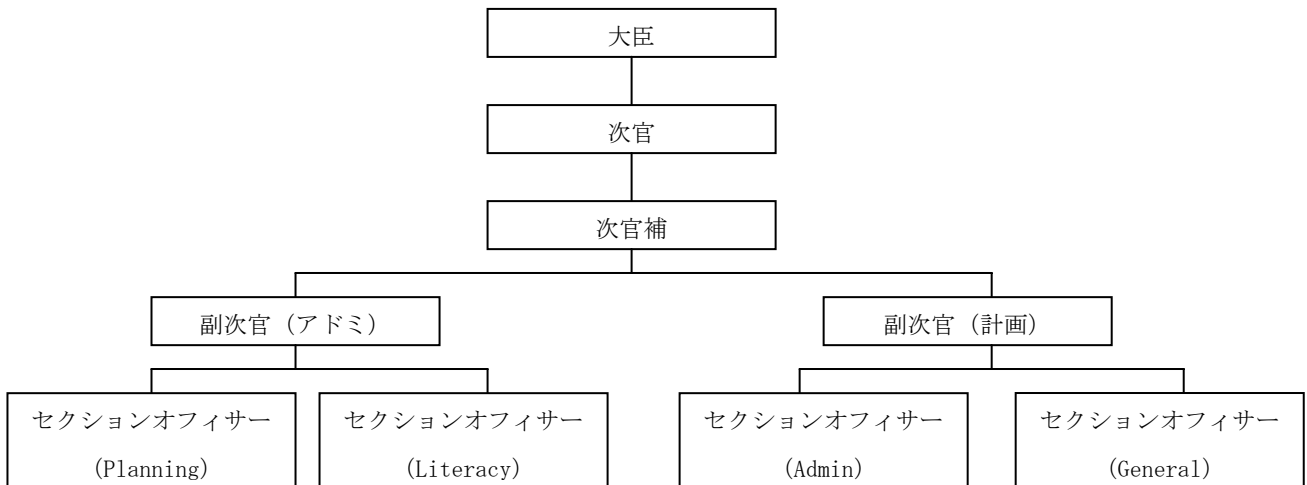


図 1 州識字局組織図

¹³ Strategic Plan, LNFBD, Government of Punjab, 2010.3

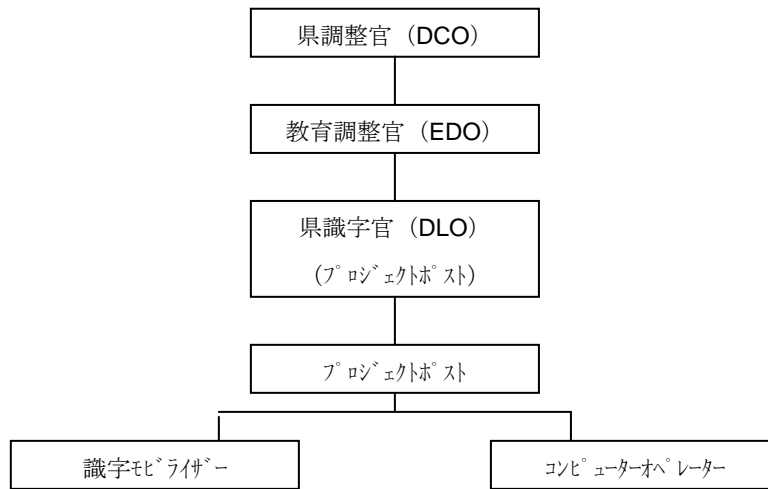
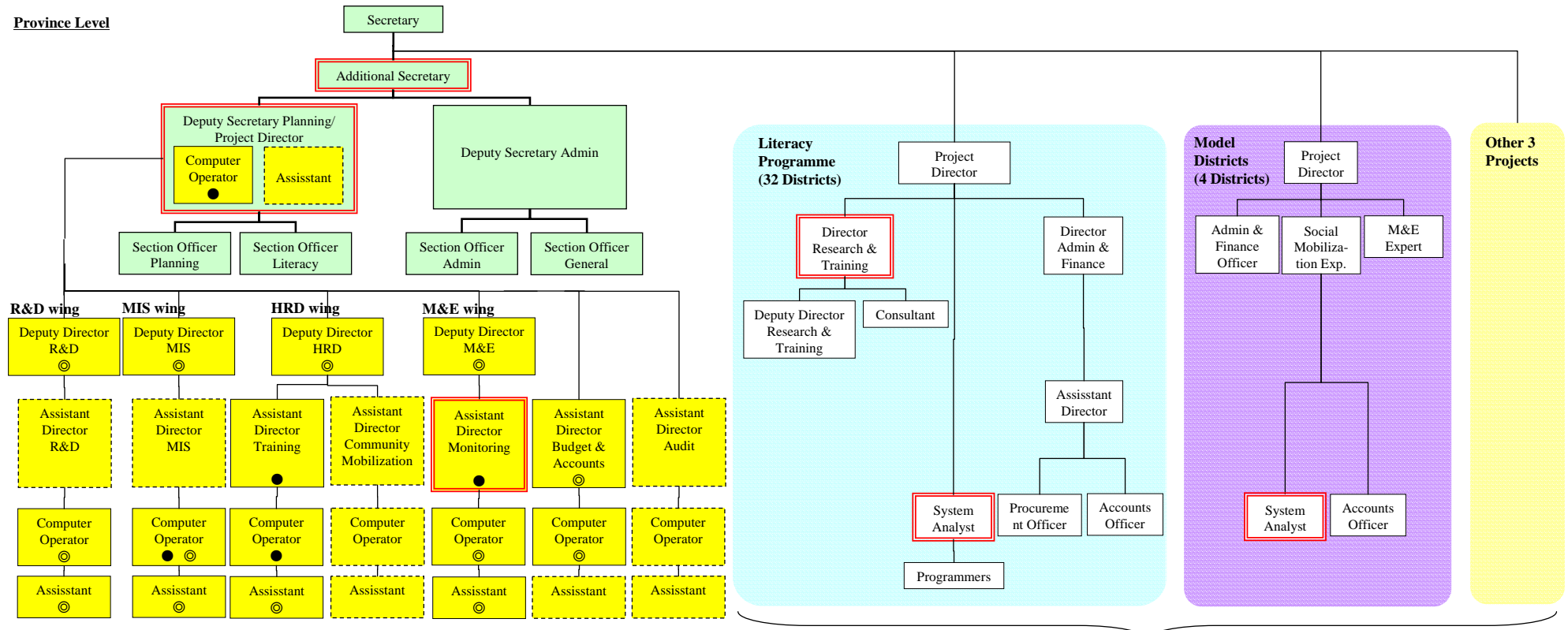


図 2 県レベルの識字行政組織図

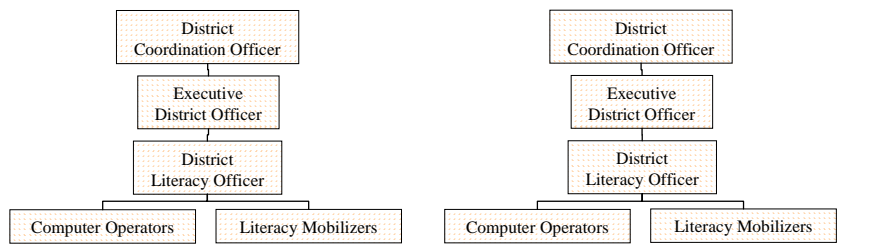
一方で 2011 年 2 月 11 日にパンジャブ州計画・開発局から各局に、プロジェクトごとに存在するプロジェクト運営ユニット(Project Management Unit)を 1 つのプロジェクト運営ユニットに統合することが通知された (Capacity Development Project を除く)。この通知によると、すべてのプロジェクトの運営に計 49 名のスタッフの配置が認められている。図 3 に Capacity Development Project によって配置されている人員とプロジェクト運営ユニットの人員を加えた組織図を示す。

さらに、2011 年 2 月 24 日に州識字局内で作成した統合後のプロジェクト運営ユニット案を図 4 に示す。

Province Level



District Level



● : Currently Staffed Posts

◎ : Approved Posts

■ : Capacity Development Project

□ : Joint Working Group (e.g. MIS)

: Total 36 Districts

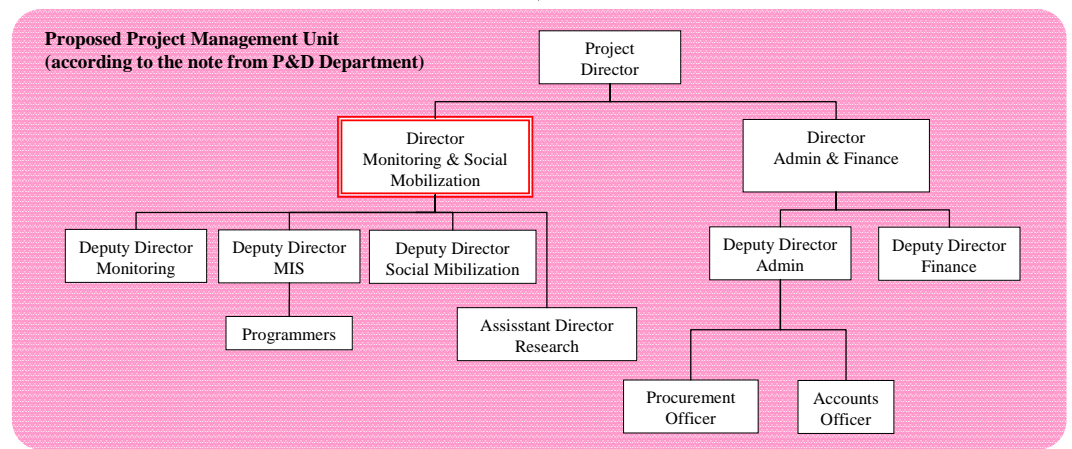


図3 識字・ノンフォーマル教育局の組織図（プロジェクト人員を含む）

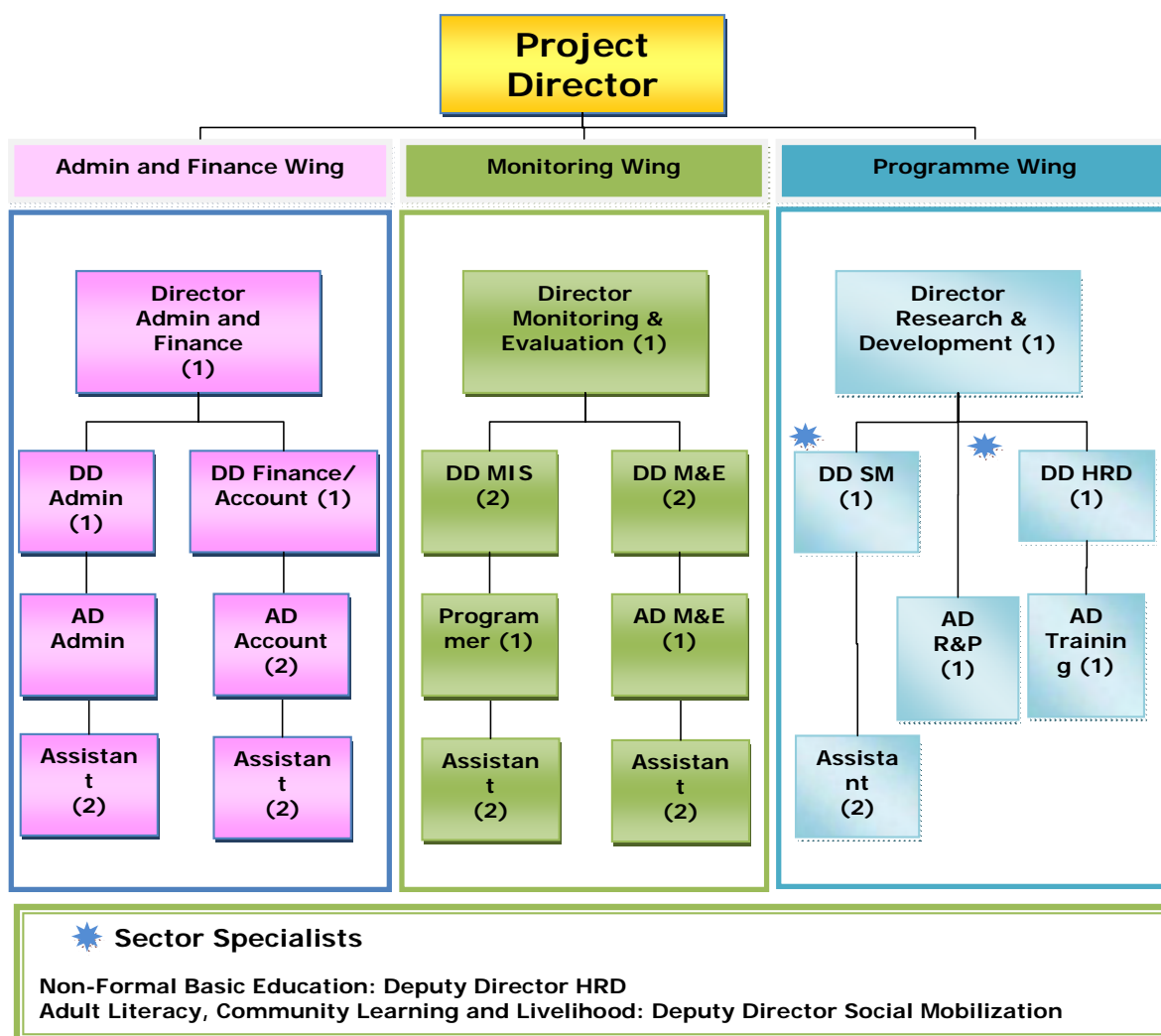


図 4 統合後のプロジェクト運営ユニット案

(2) 予算

パキスタンの政府機関は、通常予算と Annual Development Programme にて決定される開発予算の 2 種類の予算によって運営されている。開発予算はプロジェクトごとに割り当てられる予算のことである。州識字局に割り当てられている 2010/2011 年度の通常予算は 9.5 百万ルピーであり、開発予算は 800 百万ルピーである。

国家教育政策 2009 において、州・郡政府が教育予算の最低 4%を識字・ノンフォーマル教育に配分することを述べており、パンジャブ州のノンフォーマル教育に充てられている予算は増加しているものの、未だ上記開発予算は州全体の開発予算の 0.5%である。¹⁴従って、限られた予算の効率的・効果的な活用が求められている。

¹⁴ MTFD 2010-13 & Development Programme 2010-11, Planning & Development Department, Government of Punjab

(3) 業務所掌

州識字局は 18 次憲法改正の流れに沿って、業務所掌の改定を州政府に提案している。この改定は PLPP フェーズ 2 において実施されたタイ及びバングラデシュへのスタディビジットで習得した知識に基づき、州識字局のイニシアティブで取組まれたものである。改定内容は表 10 のとおりである。同表から州識字局の業務所掌が飛躍的に拡大されようとしていることが読み取れる。

表 10 業務所掌の改定箇所

Present Functions as per Rules of Business 1974	Proposed / Drafted Rules of Business 2010
<ol style="list-style-type: none"> 1. Promotion of Literacy through non- formal means 2. Research and Development objectives for higher literacy rate 3. Adult Education 4. Training of Teachers and Material Development for Non-Formal Education 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Formulation of policy with respect to Literacy and Non Formal Basic Education 2. Planning for Promotion of Literacy through non-formal means 3. Research and Development activities for higher literacy rate 4. Adult Education and Literacy with vocational trainings 5. Training of Teachers working in Non Formal Education set up 6. Material Development for Non- Formal Basic and Elementary Education and Adult Education 7. Development of curriculum for Non Formal Education line with national education policy 8. Preparation of syllabus and Text Books for Adult Literacy/post literacy& life learning skills 9. Establishment of Literacy Resource Centres 10. Establishment of Provincial Literacy Council 11. Establishment of Centres of Excellence 12. Literacy Promotion and Awareness Campaigns 13. Collection of reliable, relevant and up-to-date data about the illiterates and out of school population & Literacy Census 14. EFA Mapping & Assessment of Literates 15. Development and updation of NFEMIS 16. Setting of Standards for NFBE and Adult Literacy 17. Accreditation of non formal education providers 18. Certification to Literacy Learners 19. Issuance of Equivalence Certification to learners

(4) 計画・戦略

州識字局は PLPP フェーズ 2 の支援により、2010 年から 2019 年にかけての 10 ヶ年の計画と戦略を示す **Strategic Plan (2010-2019)** を 2010 年 3 月に策定している。**Strategic Plan** では、**SWOT** 分析を通じて州識字局の現状分析をするとともに、識字局が 10 ヶ年において果たすべき目標を識字率 100%の実現と定め、そのために達成すべき 5 つの目標及び目標達成のための活動を定めている。5 つの目標は以下のとおり定められている。

- 1) パンジャブ州のすべての年齢における非識字者及び非就学者に対して質の高い識字教育及びノンフォーマル教育を提供する。
- 2) 非識字者のなかでも最貧困層、農村及び女性に対して、その置かれている状況に応じたスキルを含めたノンフォーマル教育を提供する。
- 3) 研究開発、モニタリング評価機能の強化を行い、ノンフォーマル教育の質を向上させるためにノンフォーマル基礎教育及び識字教育のためのカリキュラムを開発（改定）する。
- 4) 教育を受けるための環境を形成するために、公平性・平等性に基づく対話、アドボカシーや啓発活動を通じてコミュニティやその他ステークホルダーの動機付け、また動員を行う。
- 5) 統一的なデータベース及びその運営体制の整備を通じて、信頼性・妥当性の高い更新可能なデータを入手可能にする。

(5) 州識字局以外のノンフォーマル教育提供者

パンジャブ州では州識字局の他に **NGO** 等も識字・ノンフォーマル基礎教育の提供をおこなっているが、割合としては、州識字局直営が 8 割、その他 2 割程度とのことである。連邦が管轄する **NEF** や **NCHD** の活動もこの 2 割に含まれる。将来的には **NGO** 等による識字教育・ノンフォーマル基礎教育の提供が増加していくと州識字局は想定しているが、一般的にパキスタンにおいて **NGO** によるノンフォーマル教育は成熟しておらず、能力強化が必要との見方がされている。

2-2-3 JICA 技術協力プロジェクトを通じた支援

(1) パンジャブ州識字行政改善プロジェクト

JICA は州識字局の要請に基づいて、州識字局を実施機関とする技術協力プロジェクト「パンジャブ州識字行政改善プロジェクト (PLPP)」を 2004 年 7 月から 2007 年 7 月まで実施した。案件の概要は以下のとおり。

実施機関名： 識字・ノンフォーマル基礎教育局
協力期間： 3.5 年間 (2004 年 1 月～2007 年 7 月)
対象地域： パンジャブ州ラホール市、4 パイロット県 (ハネワール、クシャープ、

DG ハーン、マンディ・バハーウッドイーン)

協力概算額 : 1.6 億円

案件概要 :

- | | |
|----------|---|
| 上位目標 | モデル県において、
1) 識字プロジェクトマネージメントの枠組みが維持される。
2) 識字率が州 EFA (万人のための教育) 計画の数値以上に維持される。 |
| プロジェクト目標 | モデル県の識字事業が、プロジェクトで構築される各レベルの行政および住民組織 (村・ユニオン・県・州) を統合する計画—実施—モニタリング—評価—計画修正の一連の識字プロジェクトマネージメントの枠組みに基づいて実施される。 |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1 LitMIS が開発されモデル 4 県の識字データベースが完成し毎年更新される。2 識字データベースを用いて、学校やセンターの運営方法 (数、場所、時間、授業内容など) においてターゲット住民のニーズが反映された県の識字事業実施計画が策定される。3 事業実施計画に基づき、事業が運営される。4 質を確保したモニタリング、および報告、事業評価が規則的に行われる。 |

PLPP では識字マネジメント情報システム (LitMIS) が開発され、主にモデル 4 県 (DG ハーン、ハーネーワール、フシャーブ、マンディーバハーウッドイーン) において、LitMIS を活用したノンフォーマル小学校および成人識字教室の開校・運営プロセスを示した。終了時評価時には、PLPP を通じて包括的な識字マネジメント情報システムの構築が行われたとともに、どのように識字データを収集・編集し、そのデータをどのように事業計画の立案に活用し、かつ更新・維持管理されるべきか、その方法論とプロセスが整備されているとしているが、このプロセスを州内の識字事業のマネジメントプロセスに恒常的な体制として組み込み、モデル県以外の県に展開させていくためには関係者の能力向上が必要であると結論付けている。

(2) パンジャブ州識字行政改善プロジェクト・フェーズ 2

以上を背景に、「パンジャブ州識字行政改善プロジェクト・フェーズ 2 (PLPP フェーズ 2)」が実施された。パンジャブ州のモデル県以外の 32 県に LitMIS を活用した Data-Driven Management を普及させるためには、LitMIS の管理・運用等を担う部門を州識字局内に設立することが PLPP フェーズ 2 実施の前提条件とされていたが、PLPP フェーズ 2 開始直後に交代した次官の意向により「LitMIS セル整備計画プロジェクト」は 2007 年 12 月に中止された。これを受けて、州識字局が実施するプロジェクトの 1 つである Literacy Programme

内に **Research & Training Wing** および **IT Wing** を設置することによって **LitMIS** セルの機能を代替するとの方針転換のもと、協議を重ね **LP** の能力強化を通して **LitMIS** の州内普及を行う形で **2008** 年 **3** 月に **R/D** を修正した。

しかしながら、**2008** 年 **2** 月総選挙による政権交代の影響を受けて次官は **4** 月に交代となり、その後 **9** 名次官が交代（うち **7** 名は他局との兼任）した。**C/P** 次官の度重なる交代により、これまでの合意内容と **JICA** プロジェクトの活動目的が正確に把握されずに修正 **R/D** に基づいた活動が予定通りに進まない上、実施体制・調整能力が脆弱な識字局と協力の枠組みを構築することが難しい状況に置かれた。

その後、**2008** 年 **12** 月に外部有識者による運営指導調査を実施し、①州および県政府の実施能力を鑑み、州・県が継続的に更新し持続的に活用できるよう、パイロットプロジェクトを通じて **LitMIS** の改訂を行いその活用法をガイドラインにまとめる必要があること、②州識字局のみならずパンジャブ州他局、連邦関連機関、大学、国際機関、**NGO** などのステークホルダーを巻き込み改訂版 **LitMIS** の活用法を共有することが持続性の担保につながることを確認し、プロジェクトフレームワークの見直しを行い、**2008** 年 **12** 月に **R/D** の更なる修正に合意した。修正された案件の概要は以下のとおり。

案件名：パンジャブ州識字行政改善プロジェクト（フェーズ 2）

実施機関名：識字・ノンフォーマル基礎教育局

協力期間：3.5 年間（2007 年 8 月～2010 年 7 月）

対象地域：パンジャブ州ラホール市、4 パイロット県（ハネワール、クシャープ、**DG** ハーン、マンディ・バハーウッディーン）

協力概算額：1.9 億円

概要：

- | | |
|----------|---|
| 上位目標 | ノンフォーマル小学校と成人識字センターへのアクセス及び展開がパンジャブ州内のパイロット地域から他地域へと拡大する。 |
| プロジェクト目標 | パンジャブ州内にて識字・ノンフォーマル教育活動のために改訂版 LitMIS を活用する戦略が構築される。 |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1 改訂版 LitMIS を活用した識字・ノンフォーマル教育活動のマネジメントが、パイロット活動を通じて強化される。2 識字・ノンフォーマル教育活動への改訂版 LitMIS の活用およびマネジメントがステークホルダー間で共有される。 |

上記プロジェクトフレームワークの見直しを受け、**PLPP** フェーズ 2 は **2009** 年 **1** 月からは連邦、州、県およびステークホルダーとの協議を重ね、**NEF** と協働で **NFEMIS** を開発し、パイロット事業を通じて **Data-Driven Management** の促進に取り組んできた。具体的には、州、県、ユニオンカウンシル（県の下での行政区分）、村（ユニオンカウンシルの下での行政区

分) のそれぞれのレベルにおいて、**NFEMIS** を活用したノンフォーマル教育事業の適切な計画策定、運営・モニタリングに係る技術支援を行うと同時に、これらの活動にかかるガイドラインの策定を進めてきた。

2009年4月及び12月に再度運営指導調査が実施され、プロジェクトの課題解決、進捗等に関し有益なアドバイスがなされた。また、2010年4月には2010年8月の事業終了を見据えて終了時評価調査が実施された。終了時評価では、プロジェクト目標である「識字・ノンフォーマル教育活動の普及のために**NFEMIS** を活用する戦略を構築すること」が達成されつつあることが確認された。一方で、プロジェクト目標の確実な達成、及び州識字局を中心としたさらなる**Data-Driven Management** 普及のための制度化及びその定着を促進するために、①州機関の能力強化、②州政府によるモデルプロジェクト実施支援及び実施ユニットの能力強化、③モデルプロジェクトにて対象とする4県以外の**32** 県を対象とした**NFEMIS** の普及、を目的として2010年2月までの6ヶ月のプロジェクト延長(2011年2月まで) が提言され、関係者間で合意された。

2-2-4 PLPP フェーズ2の達成度及びインパクト

今般、第4回運営指導調査を通じ、延長期間終了時の達成度及びインパクトが以下のとおり確認された。

(1) プロジェクト延長期間の活動の達成度

終了時評価では、プロジェクト目標を確実に達成し、自立発展性を高めるためには各レベル(州、県、ユニオンカウンシル、村落レベル)での組織的能力強化が必要であり、この評価結果に基づいて以下の活動が延長期間に実施された。これらのプロジェクト活動の達成度は以下のとおり。

① MIS、モニタリング、人材開発の部門を中心とした州機関の能力強化

終了時評価時には、州識字局に設立された**MIS** 部門、モニタリング部門、人材開発部門の能力強化が予定されていたが、洪水の影響もあり、当初予定されていた人員が配置されなかった。この状況を受け、州識字局は組織横断的に**3** つのワーキンググループを設立して**NFEMIS** を活用した**Data-Driven Management** の受け皿とした。これらワーキンググループとともに、各種研修の実施や研修教材の作成に取り組むことにより能力強化が図られた。

なお、**46** 人の州識字局の新規職員採用が予定されていたが、これまで洪水の影響もあり州政府から**5** 人しか採用が認められていない状況であった。しかし、**2011** 年**2** 月追加で**22** 人の採用が州政府によって承認されたことにより、州識字局の能力はさらに強固なものになることが期待できる。

② 「モデルプロジェクト」の実施とそれを通じたモデルプロジェクト実施ユニットの能力強化

州識字局が対象 4 県にて実施している「モデル県における識字率 100%を達成するための識字キャンペーン」（通称：モデルプロジェクト）のプロジェクト実施ユニットの能力強化が行われ、プロジェクト実施ユニットが県識字行政官、コンピューターオペレーター、識字普及官に対する研修を満足に実施できるようになった。なお、延長期間中にはこれらの県の識字担当スタッフに 1 度しか研修を実施することができなかつたため、プロジェクト実施ユニットによって研修後のモニタリング作業が行われた。

③ MIS 部門を通じたモデル県以外の 32 県への NFEMIS の普及

NFEMIS はパンジャブ州の全 36 県にて導入された。2 月 12 日に州識字局によって、州識字局が実施しているすべてのプロジェクトにおいて NFEMIS を導入することが義務付けられた。これによって、プロジェクトが直接支援したモデル 4 県のみならず、残りの 32 県においても NFEMIS が普及したことになる。

(2) 作成した成果品

NFEMIS の普及のために以下の成果品が最終化された。

- NFEMIS を活用した Data-Driven Management の手引書
- 県職員のための月例モニタリングマニュアル
- デジタル・マッピングマニュアル
- コンピューターオペレーター用マニュアル
- 識字普及官用マニュアル
- 県 EFA(Education For All)アトラス（モデル 4 県）
- 県 EFA 地図
- パンジャブ州 NFE マップ
- レンガ工場用識字教育マニュアル
- ドキュメンタリー資料“Rising Hope in Community”

(3) インパクト

本調査によって確認されたインパクトは以下のとおり。

- NFEMIS はパンジャブ州だけでなく、連邦政府のノンフォーマル教育提供機関である NEF 及び NCHD を通じて部分的ではあるが広くパキスタン全土に普及された。これは本案件で構築した LitMIS と National Education Foundation が利用していた MIS とを統合したことによるインパクトである。他にも KPK 州の Elementary Education Foundation 等が NFEMIS の導入に高い関心を示している。PLPP フェーズ 2 によって NEF に実施された研修を表 11 に、県ごとの NEF のノンフォーマ

ル学校である BECS における NFEMIS の導入の進捗を表 12 に示す。

- 本案件において実施されたタイ及びバングラデシュへの第三国研修で得られた知識を基に、州識字局は NFE 法の制定に取り組んでいるとともに、州識字局の業務範囲を拡大するために業務所掌を改定している。
- パンジャブ州の Planning & Development 局が本案件で作成した EFA アトラスを高く評価しており、ホームページに掲載することを進めている。

表 11 NEF のマネージャーを対象に行われたワークショップ

会場	開催日	参加者数	管轄地域
カラチ	2010 年 4 月 26 日	35 人	シンド州、バロチスタン州
ラホール	2010 年 5 月 4 日	38 人	パンジャブ州、バロチスタン州
イスラマバード	2010 年 5 月 10 日	40 人	イスラマバード首都圏、AJK、ギルギット・バロチスタン、ハイバル・パシュトゥンハ州、本部
計		113 人	

表 12 パイロット県における NFEMIS の導入進捗率

パンジャブ	ハイバル・パシュトゥンハ	シンド	バロチスタン	AJK	ギルギット・バロチスタン
Lahore 10%	Mardan 100%	Karachi 60%	Quetta N/A	Muzaffarabad 80%	Gilgit 30%
Sargodha 20%	Swabi 70%	Hyderabad 50%	Gawardar N/A	Bagh 50%	Ghizar 50%
Pakpattan N/A	Swat 65%	Larkana N/A	Pishin N/A	Mirpur 60%	Skardu 50%
Multan 30%	Bannu 70%	Noshehro Feroz N/A			

(4) 延長期間における活動実績

表 13 に延長期間における活動実績を示す。

表 13 延長期間の活動実績 (1/2)

■ : Planned ■ : Actual

Nr.	Activities	2010												2011		
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
1 Pilot Activities in 5 selected UCs																
1.1 ALCc																
1.1.1	Follow-up and Monitoring of ALCs	■	■	■	■	■	■									
1.1.2	Development of assessment tools and conduct assessment in ALCs			■	■	■	■	■								
1.1.3	Share assessment mechanism and results with stakeholders				■	■	■	■	■	■						
1.1.4	Strengthening of VECs and documentation of the process	■	■	■	■	■	■	■								
1.1.5	Share the process and importance of community participation with stakeholders							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2 Vocational Linkages																
1.2.1	Linkages of ALC learners with Vocational Skills Programme	■	■	■	■	■	■	■								
1.2.2	Provide Vocational Skills	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.3	Assessment and Certification of Learners				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.4	Develop linkages of learners with industry and micro finance organization through LNFBED							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.5	Document the process and lessons							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.6	Share strategies and learning with LNFBED and other stakeholders									■	■	■	■	■	■	■
2 Support LNFBED in implementation of PC-1 activities																
2.1	Facilitate EDO office for selection of UCs	■	■													
2.2	Provide technical assistance for Data Update through LHWs	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.3	Support in data entry and analysis			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.4	Facilitate field staff for development of UC Education Plan			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.5	Assist EDO office in prioritization of villages				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.6	Assist field staff in formation of Village Education Committees				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.7	Assist field staff in development of Village Education Plans				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.8	Facilitate EDO office in site Identification and teachers recruitment				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.9	Facilitate LNFBED in development of learning objectives and assessment tools for NFBE schools				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.10	Assist LNFBED in the implementation of assessment tools				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.11	Organize TOT for master trainer of Teachers Training			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.12	Facilitate EDO office in organization of Teacher Training							■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.13	Monitoring and Tracking of NFBEs									■	■	■	■	■	■	■
3 Replication of NFEMIS																
Replication of NFEMIS With LNFBED																
3.1 In Khushab, Mandi Bahul Din, DG Khan, Khanewal and Lahore																
3.1.1	Organize Training for Mangers				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.2	Organize Training for Data entry operators				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.3	Organize Training for LMs				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.4	Data collection and entry				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.5	Start monitoring and Tracking through NFEMIS									■	■	■	■	■	■	■
3.1.6	Review the progress/process and provide need based training											■	■	■	■	■
3.1.7	Follow-up and support to EDO offices											■	■	■	■	■
3.2 Implementation of NFEMIS in Punjab Province																
3.2.1	Capacity Building of MIS and Monitoring Cells				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.2.2	Amendments and modification of NFEMIS							■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.2.3	Installation of database at Provincial level									■	■	■	■	■	■	■
3.2.4	Organize training for Mangers, Field staff and Computer Operators of 32 district of Punjab										■	■	■	■	■	■
3.2.5	Installation of NFEMIS in other 32 districts of Punjab											■	■	■	■	■
3.2.6	Utilization of NFEMIS for Monitoring and Tracking											■	■	■	■	■

表 13 延長期間の活動実績 (2/2)

Replication of NFEMIS With Other Stakeholders												
3.3	Pilot Testing in Multan/Khanewal/Sargodha/Khushab/Lahore through NEF											
3.3.1	Installation of NFEMIS											
3.3.2	Provide Training to Computer Operators											
3.3.3	Provide Training to Field Staff											
3.3.4	Data collection and entry of NFBEs											
3.3.5	Monitoring and Tracking of NFBEs											
3.3.6	Provide Feedback to NEF and JICA											
3.4	Implementation of NFEMIS Country wide through NEF											
3.4.1	Training of Mangers at Karachi, Lahore and Islamabad (TOT)											
3.4.2	Facilitate NEF in organization of training for field staff											
3.4.3	Installation of NFEMIS at Provincial offices											
3.4.4	Installation of NFEMIS at District offices											
3.4.5	Implementation through out country											
3.4.6	Vocational Linkages											
3.5	Advocacy with other organizations											
3.5.1	Meetings with NGOs and Govt Departments at provincial and federal level											
3.5.2	Organize advocacy seminar to share the lessons learn											
3.5.3	Print and distribute brochures and other advocacy material											
4	Capacity Building											
4.1	Develop and Print handbook on data driven management											
4.2	Organize trainings for district and provincial mangers											
4.3	In country exposure visit											
4.4	International field study											
4.5	Transfer GIS learning and build the capacity of stakeholders											
5	Organize Forums											
5.1	Provincial Forum											
5.1.1	Launch of Provincial Strategic Plan											
5.1.2	Provide support to the LNFBED for organize forums on various issues/topics (PPP, Community Mobilization, Data-Driven Mangment etc.)											
5.1.3	Facilitate in the developemnt of communication strategy											
5.1.4	Provide support for the Development of provincial EFA map											
5.2	District Forums											
5.2.1	Print and Launch of 2 District Strategic Plans											
5.2.2	Provide technical support for the advocacy of Strategic Plan											
5.2.3	Provide support to the districts for organize forums on various issues/topics (PPP, Community Mobilization, Data-Driven Mangment etc.)											
5.2.4	Develop and Share EFA Mapping											
5.3	UC and Local Forums											
5.3.1	Print and Launch of 5 UC Education Plans											
5.3.2	Follow-up and support for implementation of UC Education Plans											

2-2-5 パンジャブ州におけるノンフォーマル教育の課題

(1) 課題

JICA により 2005 年 5 月に作成されている「ノンフォーマル教育支援の拡充に向けて」において、基礎教育の拡充と質の向上に関連する問題点とアプローチが整理されている。必ずしもノンフォーマル教育における課題をすべて網羅しているわけではないが、パンジャブ州におけるノンフォーマル教育の課題と照らし合わせたものを表 14 に示す。

表 14 パンジャブ州における成人識字・ノンフォーマル教育の課題 (1/2)

問題点	サブ協力目標	活動・アプローチ	パンジャブ州の課題
中央政府・地方政府レベルでの政策策定・行政能力が低い。	政策策定・行政能力の向上	政治的コミットメントの確立	
		・国際的な合意・目標、国家の現状、国家開発計画の内容、国民のニーズ、他セクターの動向などを踏まえた基礎教育政策の中に位置付けられるノンフォーマル教育プログラムの策定	○ 国家教育政策 2009 にて策定
		・識字キャンペーンの実施	△ 7ドホックに実施
		・実施体制の整備と教育予算の動向を踏まえた基本戦略と実施計画の策定	○ 州識字局 Strategic Plan にて策定
		・教育行政能力の向上	△ 州識字局人員配置等の組織体制は前進
		・各教育行政レベルおよび各部局の所管業務の明確化	○ 州識字局 Rule of Business にて明確化
		・業務遂行に必要な知識・技能の習得と意識・意欲の向上を目的とした教育行政官研修の実施	△ 7ドホックに実施
教育サービスを拡充するための、教材、教員、インフラなどが不足している。	教育サービスの量的な拡充	・教育法規、教育統計などの基本的な情報の整備	○ NFEMIS にて整備
		・教材教具の開発・配布	△ 教材の配布は行われているが、プログラムによってばらつきがある
		・ファシリテーター／教員の養成・研修	△ 教員研修はプログラム開始前に2週間行われるが内容は不十分
		・コミュニティ学習センターなどの教育インフラの整備	△ 州識字局 CLC プロジェクトの実施
教育内容・方法に柔軟性がないため多様なニーズに応えることができていない。	教育内容・方法の改善	・ITを活用した遠隔教育	△ ITではないが、75マイバル公開大学が遠隔教育を試験的に実施
		教育プログラムの弾力化	
		・学習者やコミュニティの現状やニーズに即したカリキュラムへの改善	× 行われていない。
		・学習者の生活パターンやコミュニティの年間行事などに配慮した年間／月間授業計画や時間割の見直し（例：夜間学校、成人学校、母親学級、遠隔教育など）	× 教員によって見直しがなされている
		ファシリテーター／教員の増員とその意識・知識・技能の向上	
		・教員用マニュアルの開発と普及	× 教員用マニュアルはない
		・教員の監督・評価・支援システムの向上	× 教員の監督・評価・支援システムはなくそのためのスタートもない
		・教員の待遇改善とモラルや士気の向上	× 教員の月給は Rs2500 と低い
		・継続的な現職教員研修の実施	× 現職教員研修の計画はあるが行われていない
		・教員の資格基準の見直し	× 10年生卒業程度で見直しの予定は特にない
		・教員養成課程および教員養成システムの改善	× 特にない
		カリキュラムの改善	
		・センサスや社会調査に基づく識字教育対象者および学習阻害要因の特定と右結果に基づくカリキュラム開発	× 行われていない
・カリキュラム改善のための教育研究の促進	× 研究開発部門の人材配置がなされていなかったため目立った教育研究は行われていない		
・学習者やコミュニティの現状に即したカリキュラムの改善	× 行われていない		

表 14 パンジャブ州における成人識字・ノンフォーマル教育の課題 (2/2)

問題点	サブ協力目標	活動・アプローチ	パンジャブ州の課題
教育内容・方法に柔軟性がないため多様なニーズに応えることができていない。	教育内容・方法の改善	教育方法（教授法）の改善と普及	
		・効果的・効率的な教育方法の研究開発	× 研究開発部門の人材配置がなされていなかったため目立った教育研究は行われていない
		・教員向け教材の開発と普及	× 特になし
		・児童・生徒の母語による教育と公用語による教育のベスト・ミックスの実現	× 特になし
		・児童・生徒の学習評価手法とフィードバック・システムの確立	× 特になし
		教科書／教材教具の改善と普及	
		・教科書／教材教具の内容の改善	× 特に行われていない
		・普及と維持管理の適正化	× 特に行われていない
		教育施設の改善	
		・適切な施設配置計画の策定	○ NFEMISにて策定
		・施設建設	－ 既存施設を主に利用
		・地理的特性、教育方法、建設コストなどに配慮し基本設計・標準仕様の策定	× 施設のスタンダードはない
		・多目的使用による施設運用の効率化・改善	－ 学校によって運用方法は異なる
		・管理マニュアルの整備や住民参加促進による施設維持管理能力の向上	△ 住民の参加促進をコミュニティ・ライザーが行う体制は存在する
		・備品の整備と維持管理の適正化	× 特に行われていない
		・適切なモニタリング・評価の実施	△ モニタリング・評価のためのスタンダードはないが女性ヘルパーによるモニタリングの体制は存在する
・適正な評価指標や評価手法の確立	× 評価指標や評価手法はない		
・評価の制度化と定期的な評価の実施	× 評価制度はない		
・評価結果のフィードバックシステムの構築	○ NFEMISを活用して評価結果をフィードバックする体制は存在する		
・評価者（教員や視学官）の訓練	△ NFEMISを活用したモニタリングに関する研修が行われた。		
家庭側の経済的・文化的要因により子どもの就学が阻害されている。	子どもを取り巻く教育環境の改善	・コミュニティや家庭の教育への理解促進のための啓発活動	△ 啓発活動はコミュニティ・ライザーによって行われている
		・子どもの教育にかかる家計負担と児童労働の軽減を目的とする奨学金の供与	× 特になし
		・提供される教育プログラムの無償化	－ 教育プログラムの授業料は特に問題視されていない
ノンフォーマル教育活動の政策上の位置付けが明確でない。	修了資格の公式化、フォーマル教育への就学促進	・プログラム修了資格の公式化	× 公式化されていない
		・同等性プログラムの確立	× 成人識字教育に関しては同等性は公式になっていない
基礎的能力の自立発展性を確保するための継続的な学習環境が未整備。	コミュニティの教育環境の整備	・移動図書館や教育に関するリソースセンター、コミュニティ学習センターなどの設置	○ コミュニティ学習センターは進められている

NFEMIS を活用した Data-Driven Management の導入により、効率的かつ効果的な識字・ノンフォーマル教育プログラムの計画・実施・モニタリング・フィードバックのプロセスについては強化された。また、JICA の支援を通じて州識字局のキャパシティディベロップメントが行われたことにより、州識字局は多くの関係者を巻き込むことに成功しており、ノンフォーマル教育を推進する意欲は高い。

しかしながら、教育内容・方法の改善、教育環境の改善、認定制度やフォーマル教育、技術教育及び職業訓練への就学促進については課題が多く残っている。現状としてノンフォーマル教育の質は一様ではなく、一定のレベルにまで質を向上させる必要がある。しかしながら、ノンフォーマル教育の教員、教育環境、学習者が到達すべきスタンダードが存在しないため、教員や教材の質が確保できていない。結果として、近隣にノンフォーマル学校があったとしても児童や保護者が関心を示さない、教員が学習者のニーズに応えられない、ということが起きている。さらには、学習者のニーズに沿ったカリキュラムの不在、同等性プログラムが存在しないことから、ノンフォーマル教育の学習者のフォーマル教育や技術教育へのメインストリーミングが大きな課題となっている。

また、NGO 等は独自にノンフォーマル教育を提供している。州識字局が提供するノンフォーマル教育の質がある程度改善されてから対応すべき課題であると考えられるが、これら NGO 等が提供するノンフォーマル教育の質を保証するために、ノンフォーマル教育提供者の認定制度が必要である。

(2) ノンフォーマル初等教育及び成人識字教育における現状と課題

表 15 にフォーマル教育、ノンフォーマル教育（ノンフォーマル初等教育及び成人識字教育）における各種スタンダード、カリキュラム、アセスメント手法等の現状を整理する。

1) ノンフォーマル初等教育

ノンフォーマル初等教育は、フォーマル教育のカリキュラムと同じものが使われており、教科書も同様である。ノンフォーマル初等教育では 40 ヶ月でフォーマル教育の 1 年生から 5 年生の内容を網羅する。

教員は 10 年生卒業レベルがほとんどであり、学校を開くときに 15 日間のトレーニングを受けるだけである。様々な年齢かつ学年も違う生徒を 1 教室で教えることから（複式学級）、教授法・教科内容に十分な知識を持たずに教えざるを得ない状況にある。教員の給与は約 2,500 ルピーであり、フォーマル教育の教員の給与 8,200 ルピーと比べても低い。

ノンフォーマル教育で 5 年生までの過程を修了すると、フォーマル教育と同じくパンジャブ州試験委員会（Punjab Examination Commission）が実施するテストを受け、テストに合格すると小学校修了証書を得ることができる。この修了証書があれば、前期中等学校に進むことができる。ただし、中等学校からは一般的に男女別の学校となり、その絶対数は少ない。ノンフォーマル中等学校においてはパキスタン全土で 100 校程度しかない。

表 15 パキスタンにおける各種スタンダード、カリキュラム、アセスメント手法等の現状

		フォーマル初等教育	ノンフォーマル初等教育	成人識字教育
		5-14歳の学齢期/5年生まで 5年間のコース	5-14歳の学齢期/5年生まで 3年4ヶ月のコース	15歳以上の成人 6ヶ月のコース
教員スタンダード	教員が満たすべきスタンダード（規律）	連邦	あり ¹⁵ （USAID支援により作成）	なし
		州	連邦と同様	なし
カリキュラム（学習内容）	各プログラム・学年における学習内容	連邦	あり（教育局カリキュラム部門作成）	フォーマル教育のカリキュラムを利用
		州	連邦と同様	フォーマル教育のカリキュラムを利用
学習者スタンダード	学習者が一定期間に到達すべきレベル	連邦	あり（教育局カリキュラム部門作成）	フォーマル教育にて1年で達成すべきレベルを8ヶ月間で達成すべきとしている
		州	連邦と同様	連邦と同様
アセスメント手法	学習者スタンダードの到達を把握するための手法	連邦		ノンフォーマル教育のプログラムごとにテスト実施
		州	PEC(Punjab Examination Commission)が統一的に試験を実施	ノンフォーマル教育のプログラムごとにテスト実施
アセスメント・ツール	学習者スタンダードの到達を把握するためのテスト等	連邦		ノンフォーマル教育のプログラムごとにテスト作成
		州	PECが作成	ノンフォーマル教育のプログラムごとにテスト作成
教育環境	教室が満たすべき最低限の環境	連邦		なし
		州		なし
同等性	各プログラム・学年終了時のフォーマル教育/他資格への同等性	連邦	NA	5年生終了時点で、フォーマル教育の5年生試験を受験することが可能
		州	NA	連邦と同様
認定制度	ノンフォーマル教育提供者の認定制度	連邦	NA	なし
		州	NA	なし

¹⁵注：フォーマル基礎教育の国家教員スタンダードは全部で10項目あるが、そのうち、①Subject Matter Knowledge、②Human Growth and Development、④Instructional Planning and Strategies、⑤Assessment、⑥Learning Environment、⑧Collaboration and Partnershipsの6項目については名称も中身の解説文も米国ニュージャージー州の教員スタンダード(Professional Standards for Teachers)とほぼ同一である。残り4項目についても⑩Teaching of English as Second/Foreign Language (ESL/EFL)を除く3項目において同州のものと同様である（実質的に同一である）。これは米国ニューヨーク州マンハッタンにあるコロンビア大学が、隣接するニュージャージー州の教員スタンダードを単にパキスタンに移植したことによるものと考えられる。

<http://www.state.nj.us/education/profdev/profstand/standards.pdf>

2) 成人識字

成人識字については、連邦政府が定めた国家カリキュラムが存在する。このカリキュラムによると、6ヶ月の識字教育はフォーマル教育の4年生以上との同等性があるとされている。しかし、6ヶ月のプログラムを終了しても県の行政官からの修了認定書が授与されるのみであり、フォーマル教育や職業訓練校はこの修了認定書を資格とは見なしていない。それ故、成人識字プログラム修了後の進路は極めて限られている。技術教育・職業訓練庁（Technical Education and Vocational Training Authority: TEVTA）が提供している短期訓練コースには、識字であることを参加要件にしているコースもいくつかあるが、その大半は5年生以上の修了資格が必要とされている。短期訓練コース数と必要とされる資格要件を表16に示す。

表 16 技術教育・職業訓練庁が提供する短期訓練コース数と必要資格要件

期間	必要資格要件	コース数
6ヶ月コース	識字	0
	Primary (5年生)	5
	Middle (8年生)	29
	Matric (10年生)	26
	その他 (10年生+経験・特定分野の学問等)	3
3ヶ月コース	なし	2
	識字	6
	Primary (5年生)	14
	Middle (8年生)	36
	Matric (10年生)	21
	その他 (10年生+経験・特定分野の学問等)	8
計		152

パンジャブ州試験委員会が提供している試験には年齢制限がないため受講は可能であるが、6ヶ月の識字教育を受けただけでは、複数の科目の試験が課せられる5年生の試験の合格は困難である。また、フォーマル前期中等学校側では入学の年齢制限を設けているため、フォーマルの前期中等学校への進学はできないのが現状である。

この国家カリキュラムの普及活動は行われておらず、活用されていないのが現状である。さらに憲法改正による地方への権限委譲により、教育省は、国家カリキュラムをガイドラインとして各州に適応したカリキュラムの開発をすべきとの見解を持っている。

成人識字の教員もノンフォーマル初等教育と同様に、10年生卒レベルであり、教員研修は3日間程度である。

ノンフォーマル教育へのアクセスを更に改善していくためにも質を伴った識字・ノンフォーマル教育プログラムの提供が必要である。質を向上させるためには、上述の各種スタンダードやカリキュラムの開発、同等性の確保、教員の能力強化が必要である。

第3章 新規案件概要

3-1 案件の概要

ノンフォーマル教育のアクセスと質を改善するために、州識字局は2010年8月にJICAに対して、各種スタンダード、カリキュラムやアセスメント手法等の開発を通じたノンフォーマル教育の質の向上に焦点を当てた技術協力プロジェクトを要請した。要請案件の概要は以下のとおり。

案件名：ノンフォーマル教育推進プロジェクト

実施機関名：識字・ノンフォーマル基礎教育局

協力期間：4年間

対象地域：パンジャブ州ラホール市、3-4県のパイロット県

概要：

- | | |
|----------|--|
| 上位目標 | パンジャブ州にてノンフォーマル教育のアクセスと質が改善される。 |
| プロジェクト目標 | パンジャブ州にて質の高いノンフォーマル教育提供システムが強化される。 |
| 成果 | <ol style="list-style-type: none">1. 教育環境と教員のスタンダードが設定される。2. 成人識字教育とノンフォーマル初等・基礎・中等教育の学習者のスタンダードとカリキュラムがレビューされ、改善される。3. 学習者のアセスメント手法及びアセスメントツールが開発される。4. ノンフォーマル教育提供者の認定制度及びフォーマル教育との同等性システムが開発される。 |

3-2 協議の過程

(1) ノンフォーマル教育関連機関の明確化

パキスタンでは連邦政府直轄の機関と州レベルの機関とが並存している。またそれぞれのコミュニケーションは必ずしも十分ではない。第18次憲法改正によって、各機関が担う役割も変わりつつある。

さらには、ノンフォーマル教育からフォーマル教育へのメインストリーミング、技術教育や職業訓練へのブリッジング、教員研修を実施することを考えたときに、フォーマル教育の関連機関、技術教育や職業訓練の関連機関も存在する。

このような状況のなかで、各機関が担っている役割や実施している活動の把握を進めた。また、フォーマル教育及びノンフォーマル教育が抱える課題や、各機関の関心事項に関する意見交換を通じて、本案件の妥当性を確認した。

(2) ノンフォーマル中等教育の本案件における扱い

ノンフォーマル中等教育に関しては、ノンフォーマル初等教育及び成人識字教育の進路として重要であるものの、現時点で国内で 100 校程度しかノンフォーマル中等教育校は存在しない状況であり、本案件で支援するには時期尚早であると判断した。

(3) 用語の定義

要請内容には、各種スタンダードやカリキュラム、ア krediyteeshon（上述では認定制度と訳している）等の用語が使用されている。要請内容を正確に把握するために、パキスタンにおいてこれらの用語が具体的に何を意味するのか定義を PLPP フェーズ 2 プロジェクトと共に確認した。調査期間中に確認した用語の定義は別添 3 を参照のこと。

(4) 認定制度導入の妥当性

認定制度は、一定の品質のノンフォーマル教育を保障するというを目的とするものである。しかし、現時点では州識字局も満足いくノンフォーマル教育を提供できていないわけではない。また、品質が高くないと想定される NGO 等の活動についても、品質向上を担う機関は明確になっていない。さらに、パンジャブ州においては 80% のノンフォーマル教育は州識字局が提供しており、NGO 等の活動は限られている状況である。これらを踏まえ、まずは州識字局が提供するノンフォーマル教育の品質向上を本プロジェクトの目標とし、一定の品質のサービス・デリバリーが可能になった後のシナリオとして、州識字局が認定制度の導入を検討することと整理する。

(5) 同等性 (Equivalency) 確保の現状

州識字局が提供するノンフォーマル教育は、主にノンフォーマル初等教育と成人識字教育の 2 つに分類される。それぞれにおいて同等性確保の現状と、実現性を検討した。

ノンフォーマル初等教育に関しては、そもそもフォーマル教育と同じカリキュラムを使用しており、パンジャブ試験委員会が提供している 5 年生試験を受講し合格すればフォーマル教育 (6 年生) への入学は可能である。教員の質、フォーマルと比して短いプログラム、複式学級を基本とする教室等、不利な状況多々はあるものの、ノンフォーマル初等教育校の卒業生で 5 年生試験を合格している生徒の実績もある。

成人識字教育に関しては、国家カリキュラムにおいて 6 ヶ月のプログラムを修了した時点で 4 年生+という同等性は示されているものの、5 年制修了と同等ではない。成人識字教室修了者が 5 年生試験を受講することは可能であるが、実際には合格は困難と考えられる。技術教育や職業訓練への進路も限られている。この進路の拡大のためにはプロジェクト実施期間中に技術教育を統括している TEVTA 等への働きかけが必要である。

(6) スタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツール等の作成手順

カリキュラム及び学習スタンダードに関しては、ノンフォーマル初等教育及び成人識字

教育のいずれにおいても、既存のカリキュラム及びスタンダード（ノンフォーマルの場合はフォーマル教育のもの、成人識字教育の場合は国家カリキュラム）が基本となる。ノンフォーマル教育では、フォーマルの各学年ごとのスタンダードを基本としてカリキュラムの優先順位付けを行い、教員が授業を組みやすいようにする。成人識字教育に関しては、国家カリキュラムの検証作業を行うことになる。ニーズアセスメントやベースライン調査を実施し、その結果を反映させる。アセスメント手法/ツールは学習スタンダードの後で作成することとなる。

教員スタンダードは一般的なものになる傾向があり、その作成に関しては、大きな労力を要するものではないと想定される。ただし、教員スタンダードを公式なものにするには多様な関係者を巻き込むことが必要であり、時間をかける必要がある。USAID が支援した STEP においてフォーマル教育の教員スタンダードが作成されているが、同様の見解が示されている。

学習環境スタンダードに関しても、作成にあたっては、多大な労力を要するものではないと考えられる。

(7) 良質なノンフォーマル教育を実施するための教員研修

スタンダードやカリキュラムを作成しても、それを教員が使いこなすことができなければ生徒にまで効果が裨益しない。本プロジェクトではパイロット事業を通じて、開発したスタンダードやカリキュラムに基づく教員研修を実施する。さらに、研修を受けた教員の授業モニタリングを通じて、スタンダードやカリキュラムにフィードバックさせる（パイロット・テスト）。パイロット地域は、現時点では明確に決めていないものの、パンジャブ州全体への展開を見据え、北部パンジャブ、中央パンジャブ、南部パンジャブから 1 県ずつを選定することを想定している。パイロット地域は案件開始後に選定する。

なお、教員だけでなく、スタンダード・カリキュラムの理解や教員サポートにかかる州識字局スタッフ等のキャパシティ・ディベロップメントも必要である。

(8) 各プロセスにおける関係者の巻き込み

スタンダード、カリキュラム等の作成、その普及にあたっては関係者を巻き込み、適時に情報共有していくことが必要である。JCC やワークショップ、Joint Working Group の活用、関連機関への営業を常時意識して活動を進めることが必要である。

(9) 協力期間

要請されていた協力期間は 4 年であったが、上記の点を踏まえて成果を産出し、プロジェクト目標を達成するために必要な活動について、ひとつひとつその所要期間を精査していった結果、3 年間の協力期間で実施可能であるとの結論に至った。

(10)州識字局の負担事項

本案件ではカリキュラム等を作成・印刷し、各県に配布を行う。各県への配布にあたっては、州識字局が有するネットワークを利用して、州識字局によって配布を行うこととする。

PLPP フェーズ 2 では、州識字局執務スペースの不足により、プロジェクト事務所を州識字局の執務スペースとは別の場所に設立して活動を行っていた。しかし、州識字局は事務所の移転を数回行い、現在の執務スペースは十分である。本案件では、州識字局のキャパシティ・ディベロップメントをさらに行うために、プロジェクト事務所を州識字局のなかに置くこととする。(ただし、治安対策の観点から問題がない場合。)

3-3 プロジェクトのフレームワーク

関連機関への聞き取り調査及びワークショップの開催を通じ、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 案及び活動計画 (PO) 案を作成し、ミニッツ署名を通じて、援助窓口機関である経済統計省 **Economic Affairs Division**、州計画・開発局、州識字局と合意を得た。本案件はノンフォーマル初等教育及び成人識字教育の各種スタンダード、カリキュラム、アセスメント手法の開発、及びこれらを適用したパイロット県における教員研修を通じてノンフォーマル教育の質を向上させることを目的としている。パイロット県以外の普及については、州識字局が担う。概要は以下のとおり。また、概念図を図 5 に示す。(PDM 案及び PO 案については別添資料参照)

案件名：ノンフォーマル教育推進プロジェクト

実施機関名：識字・ノンフォーマル基礎教育局

協力期間：3 年間

対象地域：パンジャブ州ラホール市、3 つのパイロット県

概要：

上位目標	パンジャブ州にてノンフォーマル教育のアクセスと質が改善される。
プロジェクト目標	パンジャブ州にて質の高いノンフォーマル教育提供システムが強化される。
成果	<ol style="list-style-type: none">1 ノンフォーマル初等教育のためのスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツールが開発される。2 成人識字教育のためのスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツールが開発される。3 パンジャブ州の州行政官、県行政官及びパイロットプロジェクト地域の教員が上記成果を活用した研修を受ける。
活動	<ol style="list-style-type: none">1-1 初等教育の既存のスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツールをレビューする。1-2 ノンフォーマル初等教育に関するニーズアセスメントを実施する。1-3 ノンフォーマル初等教育に関するカリキュラム、学習者スタンダード、アセスメント手法/ツールを開発する。1-4 ノンフォーマル初等教育に関する教員スタンダードを設定する。1-5 ノンフォーマル初等教育校の教育環境のスタンダードを設定する。1-6 パイロットプロジェクトからのフィードバックにより、上記を最終化させる。1-7 上記の活用を普及させる。2-1 成人識字教育の既存のスタンダード、カリキュラム、アセスメント手法/ツールをレビューする。2-2 成人識字教育に関するニーズアセスメントを実施する。2-3 成人識字教育に関するカリキュラム、学習者スタンダード、アセスメント手法/ツールを開発する。2-4 成人識字教育に関する教員スタンダードを設定する。2-5 成人識字教室の教育環境のスタンダードを設定する。2-6 パイロットプロジェクトからのフィードバックにより、上記を最終化させる。2-7 上記の活用を普及させる。3-1 ノンフォーマル初等教育及び成人識字教育のベースライン調査を実施する。3-2 既存の教員研修モジュール・教材をレビューする。3-3 教員研修モジュール・教材を作成する。3-4 県識字行政官の研修モジュール・教材を作成する。3-5 パイロットプロジェクトにて教員研修を実施する。3-6 州及び県行政官のキャパシティ・ディベロップメントを行う。3-7 パイロットプロジェクトにおいて研修を受けた教員によるノンフォーマル初等教育をモニタリングする。3-8 パイロットプロジェクトにおいて研修を受けた教員による成人識字教育をモニタリングする。3-9 パイロットプロジェクトでのモニタリング結果のフィードバックにより、上記を最終化させる。3-10 州識字局が研修を継続実施するための研修運営マニュアルを作成する。

Non-Formal Education Promotion Project

Difficulties

- Quality of NFE varies from project/provider to project/provider due to the lack of uniform standards, curricula and assessment methods/tools.
- Limited opportunities are available for learners to enter formal education or technical and vocational education/training.
- Teachers and provincial/district officers are undertrained to provide quality NFE.

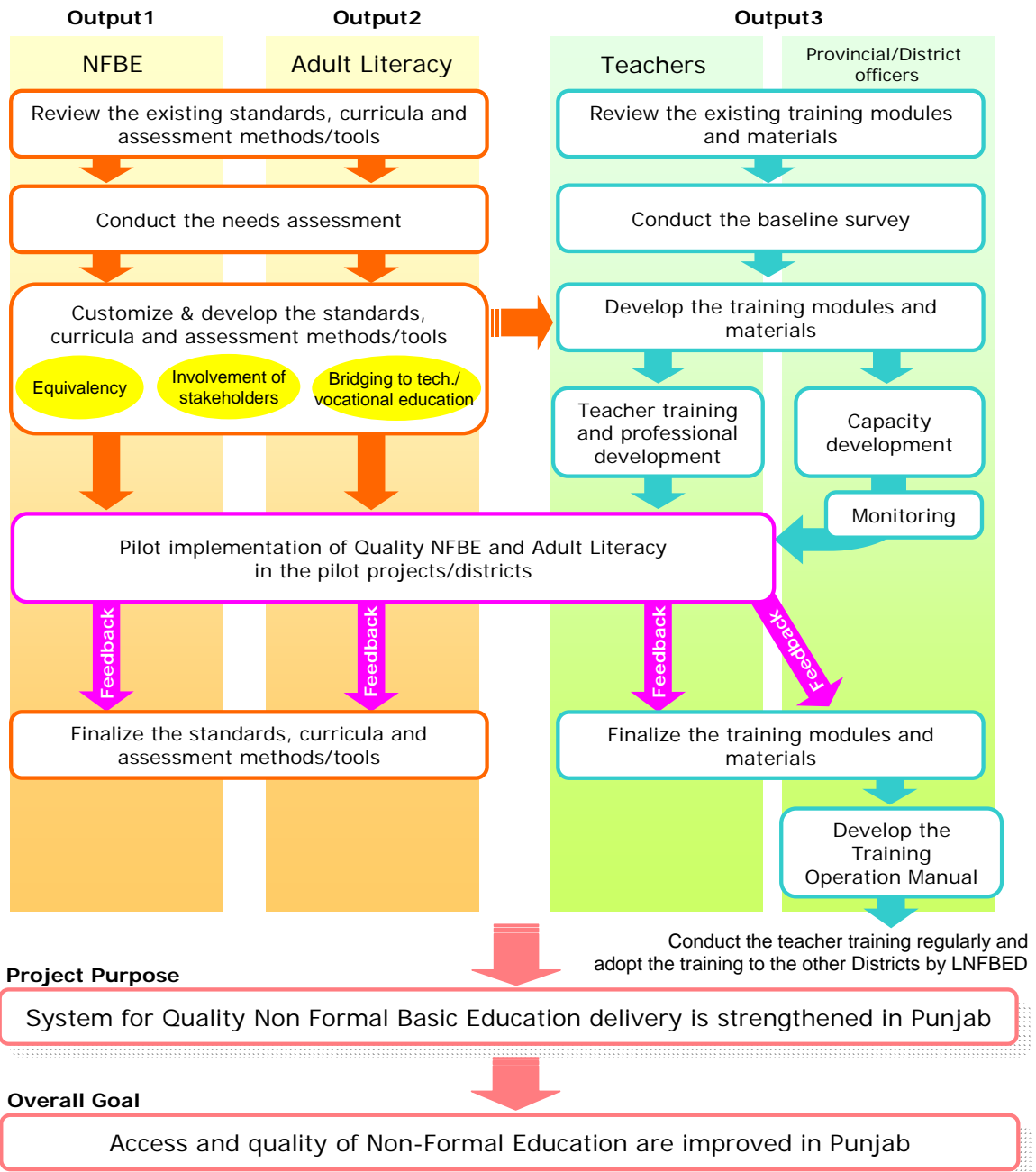


図5 プロジェクト概念図

3-4 プロジェクト実施上の留意点

(1) 州識字局の実施体制

調査開始前には、州識字局において十分な人員配置がなされていないことが懸念事項として捉えられていたが、前述のワーキンググループの設立等により対策がとられていた。州識字局が実施している各プロジェクトのキーパーソンから構成されるワーキンググループがノンフォーマル教育活動の推進役となる、という PLPP フェーズ 2 が導入したチームワークは先方からも高く評価されている。本プロジェクトにおいても、特定のプロジェクト関係者のみならず、州識字局の主要なプレーヤーが関与するような体制づくりを行っていくことが肝要である。

なお、PLPP フェーズ 2 では州識字局の次官補がフォーカルパーソンとしての役割を担っていたが、本案件においてもフォーカルパーソンの配置を M/M において合意している。

(2) 成人識字教育修了者の進路に関する考え方

パンジャブ州試験委員会が提供しているフォーマル教育の試験では、特に年齢制限や受験制限は設けられていないため、フォーマル教育へのブリッジングは可能である。ただし、10-12 歳の生徒が大多数を占める 6 年生に 15 歳以上の生徒が入学するには抵抗が大きい。

一方で、成人識字教育に関しては、6 ヶ月の限られたコースで 5 年生試験（初等教育修了試験）に合格するのは現実的には困難である。さらに、仮に合格したとしても年齢制限に抵触する場合にはフォーマル中等教育へ入学することはできない。ノンフォーマル中等教育が限られているなか、成人識字教育プログラムの修了者は TEVTA が提供している短期コースを受講することが次なるステップとしては現実的であるが、これら短期コースにおいても受講要件を初等教育修了としている事例がほとんどである。現存の成人識字教育の国家カリキュラムにおいては、6 ヶ月のコースが修了した時点で「4 年生以上」のレベルとしており、5 年生修了レベルであるという同等性は担保されていない。

したがって、成人識字教育プログラムの修了者の進路を広げるためには以下のオプションが考えられる。

- 1) フォーマル教育へのメインストーリーミング（年齢制限に問題がない場合）
 - パンジャブ州試験委員会の 5 年生試験に合格する
- 2) 技術教育/職業訓練へのブリッジング
 - パンジャブ州試験委員会の 5 年生試験に合格する
 - 成人識字教育プログラム修了は初等教育修了に相当すると TEVTA に認定され、TEVTA の受講要件が「Primary」となっているコースに入れるようにする。
 - 成人識字教育プログラム修了が初等教育修了に相当すると TEVTA に認定されない場合は、成人識字教育プログラム修了者専用のコースを TEVTA に別途開設してもらう。
 - 成人識字教育プログラム修了者専用のコースの別途開設が TEVTA で困難な場合は、

現在「Literate」となっているコースを TEVTA に拡充してもらおう。

前述のとおり、成人識字プログラムを修了しても 5 年生試験に合格することは実際には困難と想定されるため、「成人識字教育プログラム修了は初等教育修了に相当すると認定され、TEVTA の技術学校の受講要件が「Primary」となっているコースに入れるようにすることが現実的には最も望ましいオプションと考えられる。それを可能にするために成人識字教育に関する一連のスタンダードやカリキュラム、評価ツールを開発支援することが新プロジェクトの活動の一つとなっている。これをさらに確たるものにするためにも、次節に述べる通り、実施機関ではないものの、フォーマル教育及び技術教育・職業訓練に関連する機関をプロジェクト開始当初から積極的に巻き込んでいく必要がある。

(3) スタンダードやカリキュラム・アセスメント手法/ツールの開発における関連機関との連携

成果 1 と 2 はそれぞれノンフォーマル初等教育と成人識字のスタンダードやカリキュラム・アセスメント手法/ツールの開発を行うものであるが、これらの開発過程においては、現場からのニーズの反映、様々な関係者との協議や、パイロット事業における検証作業を通じてより汎用性の高いものとしていくことが肝要である。

様々な関係者とは、連邦政府や NEF、NCHD、NGO 等のノンフォーマル教育提供機関、技術教育・職業訓練機関等が挙げられる。本調査期間に、連邦教育省、州識字局、ノンフォーマル教育の実施機関である NEF、NCHD、NGO、及び TEVTA やパンジャブ州試験委員会、UNESCO 等の関係者を集め、PCM 手法の問題分析と目的分析を行った結果、政治レベル・コミュニティを巻き込んだノンフォーマル教育の推進や、各種スタンダードの必要性等について活発な議論が行われた。ノンフォーマル教育の推進において、上述の関係者の連携は不可欠であり、この連携を州識字局が中心となって継続していくことが重要である。

(4) 質を改善させたノンフォーマル教育の展開シナリオ

本プロジェクトでは、まずはパイロット事業における確実な実施を目標としている。その後、州識字局によって、開発したスタンダードやカリキュラムを反映させた教員研修をパンジャブ州全 36 県において州識字局直営の識字・ノンフォーマル教育のプロジェクトに内在化していくことを目指す。さらにその先の展開として、NGO 等が提供するノンフォーマル教育の質を向上させるために認定制度を確立させていくことが望ましい。

(5) 教員研修への州教員研修所 (Directorate of Staff Development) の関与について

現在、識字教員の訓練はアドホックにリソースを調達して実施されているのが現状であるが、教員研修の質を担保するためには安定したリソースが存在することが望ましい。

パンジャブ州内には教員研修所が存在し、教員研修所はフォーマル教員養成のための訓練施設を 33 箇所所有している。例えば、このリソースを活用することにより、組織だった識字教員訓練を行っていくことが可能となる。

3-5 団長所感

本案件のフェーズ 1「パンジャブ州識字行政改善プロジェクト」は 2004 年 7 月から 2007 年 3 月まで 3 年間実施され、同州の識字行政改善に資するデータの収集・管理に関するシステム作りを構築した。それに続く本案件は 2007 年 8 月から 2011 年 2 月まで 3.5 年実施され（2010 年 8 月から 6 ヶ月の延長期間を含む）、既存のデータ管理システム（LitMIS）をより利便性の高いもの（NFEMIS）に改訂するとともに、NFEMIS で得られた詳細かつ正確なデータを踏まえた計画・戦略策定作りを支援した。その結果、①識字局の人的基盤が強化されるとともに、②識字局独自で行っている「モデル県における識字率 100%を達成するための識字キャンペーン」の実施ユニットの能力強化が図られ、さらに③NFEMIS が同州全 36 県で導入されることが識字局通達を通じて義務付けられた。このように本案件はプロジェクト目標（パンジャブ州内にて識字・ノンフォーマル教育活動のために改訂版 LitMIS を活用する戦略が構築されること）を達成するとともに、2010 年 4 月に派遣された終了時評価調査団からの提言（延長期間に識字局とプロジェクトが協働で行うべき事柄）の内容を満たしたといえる。

本調査では、上述の現行案件の運営指導調査とともに、2010 年 8 月に同州から（パキスタン国連邦政府を通じて）正式に要請のあった「ノンフォーマル教育推進プロジェクト」についても、聞き取り調査、ワークショップ及び協議を行った。ここでは他章と若干重複するが、先方との議論の過程で重要と思われた点について述べることにする。なお、最終的な案件のデザインは「3.3 プロジェクトのフレームワーク」を参照されたい。

(1) 同等性 (equivalency)

同等性とは、表 1 に記載のとおりノンフォーマル初等教育及び成人識字教育の「各プログラム・学年終了時のフォーマル教育／他資格への同等性」のことを指す。前者についてはフォーマル教育と同じ教科書を使ってフォーマル教育 1 学年分（12 ヶ月）を 8 ヶ月に圧縮し 5 サイクル分を回して（計 40 ヶ月として）いるとされているが、その過程における学習到達度のチェックは統一的手法・基準に則って行われているわけではない。したがって、40 ヶ月後に受験する初等教育修了試験だけではなく、各サイクルにおける学習内容・到達度のフォーマル教育への同等性をきちんと確保していく必要がある。

成人識字教育については、現在 EDO が識字教室の修了証書を発行しているが、これは学校教育局や TEVTA では正規の証書として認められておらず、今後正規に認定してもらえるような内容・水準に高めていく必要がある。これを実現するためには従来の識字教育の部分をより充実させるとともに、職業訓練的な要素を取り入れて学習期間を延長することが

考えられる（フェーズ2においてはそうした取り組みをすでに行っている）。本点に関しては、修了者がより多様かつ高度な技術訓練を TEVTA 管轄下の職業学校で受講できるよう橋渡しすること（bridging）を支援しつつ（想定されるオプションについては「3.4 (2)」を参照）、可能であれば TEVTA と何らかの取り決めを文書で交わすことが理想である。ただし、識字局以外の機関との協議には多大な時間を要することもありうるため、文書による合意を行うことまでは本プロジェクトの成果（の指標）としては明示していない。

(2) 認定制度（accreditation）

認定制度とは、ノンフォーマル教育提供者が信頼に足る資格要件を備えた組織であることを識字局が正式に認める制度である（表1参照）。この制度の趣旨は、認定された組織だけが質を保証されたノンフォーマル教育を提供することができる（＝認定されていない組織が提供するノンフォーマル教育の質は保証しない）とするものであり、これによって NGO 他の提供者間の質のばらつきを是正し、質全体を向上させることを目的としている。

他方、現在パンジャブ州が行っているノンフォーマル教育プロジェクトの8割は識字局直営のものであり、NGOに委託しているものは2割にすぎない。識字局とは、外部機関の認定以前にまずは自らの直営プロジェクトの中身を見なおすことが優先されるべきであるとの見解で当方と一致したため、認定制度の構築について新プロジェクトの対象からは外すこととした。

(3) ノンフォーマル前期中等教育（Non Formal Middle School）

先方からの要請書にはノンフォーマル教育の初等レベル（1-5年生）だけでなく前期中等レベル（6-8年生）を含む、学習者スタンダードやカリキュラムの開発が盛り込まれていた。しかし、パキスタンではそもそもフォーマル前期中等教育の総就学率が20%と低水準にあるほか、ノンフォーマル中等学校はパキスタン全土で100校程度しかない。したがって、ノンフォーマル前期中等教育に係る学習者スタンダードやカリキュラムについては、新プロジェクトの対象からは外すことで先方と合意した。

以上のほか、識字局のより一層の能力強化とその前提となる的確な人員配置が望まれることは論を待たないが、これまで関係者（長期及び短期専門家、各種調査団等）の努力によって識字局のオーナーシップはプロジェクト開始以前とは比較にならないほど高まっており、そのことは2月19日に開催されたワークショップでの参加者の活発な議論からも十分に確認することができた。

新プロジェクトにおいては、識字局は同じ建物の中に日本人専門家らの執務スペースを確保することを約束している。日パ双方がより物理的にも内容面でも緊密に協働することによって、識字局を中心にパンジャブ州においてより良質なノンフォーマル教育が提供される基盤が強固なものになっていくことが強く期待される。

別添資料

1. Minutes of Meeting (PDM 案、PO 案を含む)
2. 面談メモ
3. 用語の解説
4. 収集資料リスト

別添 1 Minutes of Meeting
(2011 年 2 月 23 日署名済み)

**MINUTES OF MEETING
BETWEEN
JICA CONSULTATION MISSION
AND
AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF ISLAMIC REPUBLIC OF PAKISTAN ON
JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR
THE PUNJAB LITERACY PROMOTION PROJECT, PHASE-II**

The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) dispatched the Consultation Mission (hereinafter referred to as “the Mission”) that aims to 1) review the achievements of the Punjab Literacy Promotion Project Phase II (hereinafter referred to as “PLPP”) on the basis of the Record of Discussions revised on 30th June 2010, 2) grasp the current situation of Non Formal Education (hereinafter referred to as “NFE”) in the Punjab Province and 3) design the outline of the project which was requested by the Government of Pakistan in August 2010 (hereinafter referred to as “the Project”). The Mission held a series of discussions with the Literacy and Non Formal Basic Education Department, Government of Punjab (hereinafter referred to as “LNFBED”) and the authorities concerned during the period of 12th to 25th February, 2011. As a result of the discussions, the Mission and the Pakistani authorities concerned mutually agreed upon the matters referred to in the documents attached hereto.

Lahore, 23 February 2011

Mr. Satoru Takahashi
Leader
Consultation Mission
Japan International Cooperation Agency
Japan

Dr. Allah Bakhsh Malik
Secretary
Literacy and Non Formal Basic Education
Department, Government of Punjab
Islamic Republic of Pakistan

Mr. Waqar Hussain Abbasi
Deputy Secretary
Economic Affairs Division
Federal Government
Islamic Republic of Pakistan

Mr. Ali Tahir
Secretary
Planning and Development Department
Government of the Punjab
Islamic Republic of Pakistan

ATTACHED DOCUMENT

I ACHIEVEMENTS OF THE EXTENSION PERIOD

Achievements of the extension period of PLPP were confirmed based on the Record of Discussions revised on 30th June 2010. The extension period of 6 months was agreed in the revised Record of Discussions in line with the conclusions which came up from the terminal evaluation carried out in April 2010, to achieve the outputs as follows;

- 1) Capacity building of Provincial institutions, especially for MIS, Monitoring and Evaluation and Human Resources Development Wings,
- 2) Capacity building of the Project Implementation Unit of the “Model Districts of Literacy Campaign to Achieve 100% Literacy” in parallel with its implementation,
- 3) Expansion on NFEMIS to the other 32 Districts through MIS Wing.

1. Achievements of the outputs

The Mission confirmed that PLPP has achieved the Project Purpose which was “Strategies to utilize modified LitMIS (NFEMIS) for literacy/NFE activities in Punjab Province are developed.” with the achievements of aforementioned outputs. The actual activities which were conducted in the extension period are shown in ANNEX 1. Followings are the detail of each output.

- 1) Capacity building of Provincial institutions, especially for MIS, Monitoring and Evaluation and Human Resources Development Wings

Data-Driven Management was internalized in the three Joint Working Groups, which were constituted according to the orders of LNFED. The three Joint Working Groups are the Training Working Group, Monitoring & Evaluation Working Group and MIS Working Group. The capacity of the Working Groups was enhanced through several activities carried out together by the Working Groups and PLPP, such as development of the training manuals and provision of training on Data-Driven Management.

The Working Groups were organized to conduct the activities to be covered by the Wings created in the Capacity Building Project of the Department, because the staff recruitment to the Wings has been stagnated due to the flood calamity.

Among 46 posts in the Capacity Building Project, merely five posts have been staffed so far. However, the appointment of 22 staff members was additionally approved by the Chief Secretary in February 2011. So a total of 27 posts will soon be staffed. This will further strengthen the foundation of human resources.

- 2) Capacity building of the Project Implementation Unit of the “Model Districts of Literacy Campaign to Achieve 100% Literacy” in parallel with its implementation

The Project Implementation Unit of the “Model Districts of Literacy Campaign to Achieve 100% Literacy” becomes capable enough to provide the training to the District Literacy Officers, Computer Operators and Literacy Mobilizers in their Districts as well as the other Districts. To assure the performance of those District staff members,

the Project Implementation Unit is supervising their implementation on the ground.

3) Expansion on NFEMIS to the other 32 Districts through MIS Wing

NFEMIS has been adopted by every District in Punjab. According to the order of LNFBED dated 12th February 2011, all the projects shall be bound to submit relevant data/information through the proformas and reporting mechanism provided in the Monthly Monitoring Manual which was developed by the MIS Working Group of Capacity Building Project and JICA.

2. Materials

Following materials were finalized and widely distributed to the stakeholders.

- Handbook of Data-Driven Management with NFEMIS
- Concise Manual for Provincial and District Personnel on Monthly Monitoring of Non Formal Education Institutions and Projects
- Digital Mapping Manual
- Computer Operator Manual
- Literacy Mobilizer Manual
- District EFA Atlas for the four model Districts
- NFE Map for Punjab Province
- EFA Map for four model Districts
- Manual for Brick Kiln
- DVD “Literacy: Rising Hope in Community”

3. Impacts

Several positive impacts were observed as follows;

- NFEMIS has been extensively introduced to the NFE programs of the National Education Foundation and the National Commission of Human Development. The other stakeholders such as the Elementary Education Foundation in KPK Province also have shown their interest in introducing NFEMIS into their own programs,
- Knowledge gained through the pilot activities and the study visit enabled LNFBED to revise their Rules of Business and legislate the NFE Laws, and
- Planning and Development Department of the Government of Punjab highly valued the EFA Atlas and they have an intension to upload the report on their website.

II OUTLINE OF THE NEW PROJECT

The Project requested by the Government of Pakistan in August 2010 was approved by the Government of Japan. It will be implemented within the Japanese Fiscal Year 2011. The Outline of the Project is as follows;

1. Outline of the Project

1-1. Project Title

The title of the Project is “Non-Formal Education Promotion Project”.

1-2. Duration of the Project

Duration of the Project is three years.

1-3. Project Design Matrix

Project Design Matrix (draft) is shown in ANNEX 2.

1-4. Plan of Operation

Plan of Operation (draft) is shown in ANNEX 3.

1-5. Project Sites

The Project site is the Punjab Province. Pilot projects will be conducted in three Districts.

1-6. Administration of the Project

1) Assignment of the counterparts

The sufficient number of counterparts will be assigned to the Project that are to be implemented in collaboration with the Joint Working Groups. A Joint Working Group for research and development will be constituted upon necessity.

2) Organogram of the project implementation is shown in ANNEX 4.

3) Joint Coordination Committee

The Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as “JCC”) will be held at least once a year and whenever the necessity arises, in order to fulfill the following functions;

- to discuss and approve the annual work plan of the Project,
- to review the overall progress and the achievement of the annual work plan, and
- to review and exchange views on major issues (e.g. revision of PDM and PO) arising in connection with the Project.

The composition of the JCC is as follows;

- Members of the Pakistani side
 - Secretary of LNFBED (Chairperson)
 - Additional Secretary of LNFBED
 - Deputy Secretaries of LNFBED
 - Project Directors of LNFBED
 - Representative of Joint Working Groups of LNFBED
 - Representative of pilot projects of LNFBED
 - Representative from School Education Department
 - Representative from Technical Education and Vocational Training Authority
 - Representative from Planning and Development Department
 - Representative from other organizations (if necessary)
- Members of the Japanese side
 - Long-term Expert
 - Project Coordinator
 - Representative of JICA Pakistan Office
 - Representative of JICA Headquarters (if necessary)
 - Representative of the Embassy of Japan (if necessary)

2. Measures to be taken by the Government of Pakistan

2-1. Approval of PC-1

The PC-1 for the Project should be prepared for the implementation of the Project. JICA will be able to sign the Record of Discussions after the PC-1 is approved, which is a necessary procedure to commence the Project.

2-2. Continuous maintenance and utilization of NFEMIS

NFEMIS will be continuously maintained and utilized by LNFBED for the Data-Driven Management mainly through the proformas and reporting mechanism provided in the Handbook of Data-Driven Management with NFEMIS and Monthly Monitoring Manual.

2-3. Assignment of the staff members

The Pakistani side pledged to designate a focal person for the Project from LNFBED.

2-4. Dissemination of the Project outputs

LNFBED will officially introduce the newly developed standards, curricula, assessment method/tools and teacher training for NFBE and Adult Literacy to every District in Punjab after the finalization of them during the Project implementation.

2-5. Coordination with various stakeholders

The Japanese side asked the mechanism of developing, finalizing and approving the outputs of the Project. The Pakistani side explained that the Secretary of LNFBED approves the final outputs of the Project. In this process, stakeholders such as the School Education Department and Technical Education and Vocational Training Authority are involved.

Thus coordination amongst various stakeholders will be a key enabler for the successful project implementation. So LNFBED needs to implement the Project, keeping close contact with such stakeholders.

2-6. Office space for the Project

LNFBED will provide an office space for the Project in their building during the project period for efficient collaboration between LNFBED and the Project.

LIST OF ANNEX

ANNEX 1	Activities during the extension period of PLPP Phase II
ANNEX 2	Project Design Matrix (draft)
ANNEX 3	Plan of Operation (draft)
ANNEX 4	Organogram of the project implementation

■ : Planned ■ : Actual

Nr.	Activities	2010												2011		
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2			
1	Pilot Activities in 5 selected UCs															
1.1	ALCc															
1.1.1	Follow-up and Monitoring of ALCs	■	■	■	■	■	■									
1.1.2	Development of assessment tools and conduct assessment in ALCs			■	■	■	■	■	■							
1.1.3	Share assessment mechanism and results with stakeholders					■	■	■	■	■						
1.1.4	Strengthening of VECs and documentation of the process	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
1.1.5	Share the process and importance of community participation with stakeholders							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2	Vocational Linkages															
1.2.1	Linkages of ALC learners with Vocational Skills Programme	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
1.2.2	Provide Vocational Skills	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
1.2.3	Assessment and Certification of Learners					■	■	■	■	■						
1.2.4	Develop linkages of learners with industry and micro finance organization through LNFBED							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.5	Document the process and lessons							■	■	■	■	■	■	■	■	■
1.2.6	Share strategies and learning with LNFBED and other stakeholders									■	■	■	■	■	■	■
2	Support LNFBED in implementation of PC-1 activities															
2.1	Facilitate EDO office for selection of UCs	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.2	Provide technical assistance for Data Update through LHWs	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.3	Support in data entry and analysis			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.4	Facilitate field staff for development of UC Education Plan			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.5	Assist EDO office in prioritization of villages			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.6	Assist field staff in formation of Village Education Committees			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.7	Assist field staff in development of Village Education Plans			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.8	Facilitate EDO office in site Identification and teachers recruitment					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.9	Facilitate LNFBED in development of learning objectives and assessment tools for NFBE schools					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.10	Assist LNFBED in the implementation of assessment tools					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.11	Organize TOT for master trainer of Teachers Training			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.12	Facilitate EDO office in organization of Teacher Training							■	■	■	■	■	■	■	■	■
2.13	Monitoring and Tracking of NFBEs									■	■	■	■	■	■	■
3	Replication of NFEMIS															
	Replication of NFEMIS With LNFBED															
3.1	In Khushab, Mandi Bahul Din, DG Khan, Khanewal and Lahore															
3.1.1	Organize Training for Mangers					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.2	Organize Training for Data entry operators					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.3	Organize Training for LMs					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.4	Data collection and entry					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.5	Start monitoring and Tracking through NFEMIS					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.1.6	Review the progress/process and provide need based training															
3.1.7	Follow-up and support to EDO offices															
3.2	Implementation of NFEMIS in Punjab Province															
3.2.1	Capacity Building of MIS and Monitoring Cells					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.2.2	Amendments and modification of NFEMIS					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
3.2.3	Installation of database at Provincial level															
3.2.4	Organize training for Mangers, Field staff and Computer Operators of 32 district of Punjab															
3.2.5	Installation of NFEMIS in other 32 districts of Punjab															
3.2.6	Utilization of NFEMIS for Monitoring and Tracking															

Replication of NFEMIS With Other Stakeholders												
3.3	Pilot Testing in Multan/Khanewal/Sargodha/Khushab/Lahore through NEF											
3.3.1	Installation of NFEMIS											
3.3.2	Provide Training to Computer Operators											
3.3.3	Provide Training to Field Staff											
3.3.4	Data collection and entry of NFBES											
3.3.5	Monitoring and Tracking of NFBES											
3.3.6	Provide Feedback to NEF and JICA											
3.4	Implementation of NFEMIS Country wide through NEF											
3.4.1	Training of Mangers at Karachi, Lahore and Islamabad (TOT)											
3.4.2	Facilitate NEF in organization of training for field staff											
3.4.3	Installation of NFEMIS at Provincial offices											
3.4.4	Installation of NFEMIS at District offices											
3.4.5	Implementation through out country											
3.4.6	Vocational Linkages											
3.5	Advocacy with other organizations											
3.5.1	Meetings with NGOs and Govt Departments at provincial and federal level											
3.5.2	Organize advocacy seminar to share the lessons learn											
3.5.3	Print and distribute brochures and other advocacy material											
4	Capacity Building											
4.1	Develop and Print handbook on data driven management											
4.2	Organize trainings for district and provincial mangers											
4.3	In country exposure visit											
4.4	International field study											
4.5	Transfer GIS learning and build the capacity of stakeholders											
5	Organize Forums											
5.1	Provincial Forum											
5.1.1	Launch of Provincial Strategic Plan											
5.1.2	Provide support to the LNFBED for organize forums on varioues issues/topics (PPP, Community Mobilization, Data-Driven Mangment etc.)											
5.1.3	Facilitate in the developemnt of communication strategy											
5.1.4	Provide support for the Development of provincial EFA map											
5.2	District Forums											
5.2.1	Print and Launch of 2 District Strategic Plans											
5.2.2	Provide technical support for the advocacy of Strategic Plan											
5.2.3	Provide support to the districts for organize forums on varioues issues/topics (PPP, Community Mobilization, Data-Driven Mangment etc.)											
5.2.4	Develop and Share EFA Mapping											
5.3	UC and Local Forums											
5.3.1	Print and Launch of 5 UC Education Plans											
5.3.2	Follow-up and support for implementation of UC Education Plans											

Project Design Matrix (draft) (version 23rd February 2011)

Project Name: Non-Formal Education Promotion Project

Project period: 3 years

Pilot Districts: 3 Districts

Target group: Direct Beneficiaries 1) Literacy and Non-formal Basic Education Department (LNFBED),
 2) All the six ongoing projects
 3) District officers
 4) Teachers of NFBE schools and Adult Literacy Centers of pilot projects

Indirect Beneficiaries 1) 5.8 million out-of-school children (5-14 years)
 2) 11.2 million youth and adult illiterates (15+ years)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVE VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p>[OVERALL GOAL] Access and quality of Non Formal Education (NFE) are improved in Punjab.</p>	<p>1. Decreased drop-out rate of NFBE and Adult Literacy (NFBE:xx, Adult Literacy: xx) 2. Increased number of learners who completed NFBE and Adult Literacy in Punjab (NFBE:xx, Adult Literacy: xx)</p>	<p>1. NFEMIS 2. NFEMIS</p>	
<p>[PROJECT PURPOSE] System for Quality Non Formal Education delivery is strengthened in Punjab.</p>	<p>1. Increased number of learners who completed NFBE and Adult Literacy in the pilot projects (NFBE:xx, Adult Literacy: xx) 2. Number of Districts which adopted the training modules for teachers below.</p>	<p>1. NFEMIS 2. Interview with LNFBED</p>	

<p>[OUTPUTS]</p> <p>1. Standards, curricula and assessment methods/tools for Non Formal Basic Education (NFBE) are developed.</p> <p>2. Standards, curriculum and assessment methods/tools for Adult Literacy are developed.</p> <p>3. Provincial officers, District officers (Executive District Officers, District Literacy Officers, Literacy Mobilizers, etc.) in Punjab Province and teachers in pilot projects are trained for newly developed outputs above.</p>	<p>1.1 Approved <i>Learning Standards for NFBE</i> (grade 1-5) assuring equivalency to formal education</p> <p>1.2 Approved <i>Curricula for NFBE</i> (grade 1-5)</p> <p>1.3 Approved <i>Assessment methods/tools for NFBE</i> (grade 1-5)</p> <p>1.4 Approved <i>Teacher Standards for NFBE</i></p> <p>1.5 Approved <i>Environment Standards for NFBE schools</i></p> <p>2.1 Approved <i>Learning Standards for Adult Literacy</i> assuring equivalency to formal education and bridging to technical education/vocational training</p> <p>2.2 Approved <i>Curriculum for Adult Literacy</i></p> <p>2.3 Approved <i>Assessment methods/tools for Adult Literacy</i>.</p> <p>2.4 Approved <i>Teacher Standards for Adult Literacy</i></p> <p>2.5 Approved <i>Environment Standards for Adult Literacy Centers</i></p> <p>3.1 Developed <i>Training Modules</i> including materials</p> <ul style="list-style-type: none"> - for NFBE teachers - for Adult Literacy teachers - for EDOs (Executive District 	<p>1.1 <i>Learning Standards for NFBE</i></p> <p>1.2 <i>Curricula for NFBE</i></p> <p>1.3 <i>Assessment methods/tools for NFBE</i></p> <p>1.4 <i>Teacher Standards for NFBE</i></p> <p>1.5 <i>Environment Standards for NFBE schools</i></p> <p>2.1 <i>Learning Standards for Adult Literacy</i></p> <p>2.2 <i>Curriculum for Adult Literacy</i></p> <p>2.3 <i>Assessment method and tools for Adult Literacy</i></p> <p>2.4 <i>Teacher Standards for Adult Literacy</i></p> <p>2.5 <i>Environment Standards for Adult Literacy Centers</i></p> <p>3.1 <i>Training Modules</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - for NFBE teachers - for Adult Literacy teachers - for EDOs, DLOs and Literacy Mobilizers 	<p>1. Sufficient budget is allocated to LNFBE to conduct teacher training for pilot projects.</p> <p>2. Sufficient number of personnel is allocated in LNFBE and pilot projects.</p>
--	---	---	--

	<p>Officer), DLOs (District Literacy Officer) and Literacy Mobilizers</p> <p>3.2 Number of the trainees who participated in the training</p> <ul style="list-style-type: none"> - NFBE teachers - Adult Literacy teachers - Provincial Officers, EDOs, DLOs and Literacy Mobilizers <p>3.3 Degree of understanding of the trainees who participated in the training</p> <ul style="list-style-type: none"> - NFBE teachers - Adult Literacy teachers - Provincial Officers, EDOs, DLOs and Literacy Mobilizers <p>3.4 Teaching skills of the teachers</p> <ul style="list-style-type: none"> - NFBE teachers - Adult Literacy teachers <p>3.5 <i>Training Operation Manual</i> for NFBE and Adult Literacy</p>	<p>3.2 Project documents</p> <p>3.3 Project documents</p> <p>3.4 Project documents</p> <p>3.5 <i>Training Operation Manual</i></p>	
<p>[ACTIVITIES]</p> <p>1.1 Review the existing standards, curricula and assessment methods/tools for basic education.</p> <p>1.2 Conduct the need assessment for NFBE.</p> <p>1.3 Customize the <i>Curricula, Learning Standards</i> and <i>Learning Assessment Method/Tools for NFBE</i>.</p> <p>1.4 Develop the <i>Teacher Standards for NFBE</i>.</p> <p>1.5 Develop the <i>Environment Standards for NFBE</i></p>	<p style="text-align: center;">[INPUT]</p> <p>from Pakistani side</p> <p>1. Counterpart personnel and working groups related to the Project</p> <p>2. Office space for the Project staff in the building of LNFBE</p> <p>3. Running expenses</p> <p>4. Available data, information, documents, maps, etc.</p>		

<p><i>Schools.</i></p> <p>1.6 Revise and finalize the <i>Curricula, Learning Standards, Learning Assessment Method/Tools, Teacher Standards</i> and <i>Environment Standards for NFBE</i> from the feedback from pilot projects.</p> <p>1.7 Share the use of <i>Curricula, Learning Standards, Learning Assessment Method/Tools, Teacher Standards</i> and <i>Environment Standards for NFBE</i>.</p> <p>2.1 Review the existing Standards, curricula and assessment methods/tools for Adult Literacy.</p> <p>2.2 Conduct the need assessment for Adult Literacy.</p> <p>2.3 Customize the <i>Curricula, Learning Standards</i> and <i>Learning Assessment Method/Tools for Adult Literacy</i>.</p> <p>2.4 Develop the <i>Teacher Standards for Adult Literacy</i>.</p> <p>2.5 Develop the <i>Environment Standards for Adult Literacy Centers</i>.</p> <p>2.6 Revise and finalize the <i>Curricula, Learning Standards, Learning Assessment Method/Tools, Teachers Standards</i> and <i>Environment Standards for Adult Literacy</i> from the feedback from pilot projects.</p> <p>2.7 Share the use of <i>Curricula, Learning Standards, Learning Assessment Method/Tools, Teachers Standards</i> and <i>Environment Standards for Adult Literacy</i>.</p> <p>3.1 Conduct the baseline survey for NFBE and Adult Literacy.</p> <p>3.2 Review the existing training modules for teachers</p>	<p>5. Appropriate security measures</p> <p>from Japanese Side</p> <p>1. Experts</p> <p>i) Long-term expert / NFE (1)</p> <p>ii) Short-term expert / Assessment (1) (if necessary)</p> <p>iii) Third country expert / Capacity Development (1) (if necessary)</p> <p>2. Local cost</p> <p>i) Personnel assignment</p> <p>ii) Study visit to the third country</p> <p>iii) Development and printing of the documents and materials</p> <p>3. Equipment</p> <p>Office equipment</p> <p>4. Training in Japan (if necessary)</p>	<p>[PRE-CONDITION]</p> <p>1. Support from School Education Department and TEVTA is ensured.</p> <p>2. The revised rule of business of LNFBED is approved.</p> <p>3. Security condition is maintained</p>
---	--	---

<p>including materials.</p> <p>3.3 Develop the <i>Training Modules for teachers</i> including materials.</p> <p>3.4 Develop the <i>Training Modules for EDOs (Executive District Officer), DLOs (District Literacy Officer) and Literacy Mobilizers</i> including materials.</p> <p>3.5 Provide teacher training and professional development in pilot projects.</p> <p>3.6 Develop the capacity of Provincial officers, EDOs, DLOs and Literacy Mobilizers in Punjab.</p> <p>3.7 Monitor the NFBE by the trained teachers in the pilot projects.</p> <p>3.8 Monitor the Adult Literacy by the trained teachers in the pilot projects.</p> <p>3.9 Revise and finalize the <i>Training Modules for teachers</i> and <i>Training Modules for EDOs (Executive District Officer), DLOs (District Literacy Officer) and Literacy Mobilizers</i> including materials from the feedback from the result of monitoring.</p> <p>3.10 Develop the <i>Training Operation Manual</i> for LNFBE to conduct training regularly.</p>		
--	--	--

別添 2 面談メモ

1. Ministry of Education – Project Wing (2011年2月12日)
2. National Education Foundation (2011年2月12日)
3. UNESCO (2011年2月14日)
4. National Commission for Human Development (2011年2月14日)
5. Ministry of Education – Curriculum Wing (2011年2月14日)
6. Allama Iqbal Open University (2011年2月14日)
7. Pre-STEP (2011年2月14日)
8. Planning & Development Department, Punjab Govt. (2011年2月15日)
9. Literacy and Non-Formal Basic Education Department, Punjab Govt. (2011年2月15日)
10. Directorate of Staff Development, School Education Department, Punjab Govt. (2011年2月15日)
11. Technical Education & Vocational Training Authority (2011年2月17日)
12. Punjab Examination Commission (2011年2月18日)
13. School Education Department, Punjab Govt. (2011年2月18日)

1. 日時	2011年2月12日(土)
2. 場所	Ministry of Education Project Wing
3. 面談者	Dr. Muhammad Saleem, Deputy Educational Advisor, Ministry of Education Project Wing
4. 内容	<p>(1) 識字・NFEをめぐる課題</p> <p>【NFBEとNFMS】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノンフォーマルミドルスクール(NFMS)へのアクセス不足が大きな課題である。NFMSはとても少ない。 ・NFBE終了後は、フォーマルのミドルスクールへメインストリームされるべきだが、フォーマルのミドルスクールも少ないのが現状。 ・NFMSを作った場合の教育確保には問題がないと考えられる。なぜならば余剰教員が多いからであり、このような教員がNFMSを担えると考えられるため。 ・NFMSについては、現在パイロットベースでUNFPEの支援により、アラマイクバル大学でのオープンユニバーシティ(通信教育)がおこなわれている。6-8年生を提供しており、成功している。 ・右大学は各地に分校をもっており、そこにはチューターがいる。通信教育とスクーリングをおこなう。 <p>【ALC】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ALCについてはナショナルカリキュラムが存在するが、使われていない(知られていない)。 <p>【リソースセンターの不在】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NFEに関するリソースセンターが必要であり、国・州・郡レベル設置を行おうとしているところである。国レベルでは、NCHDがその機能を持つべきと考えている。 <p>【コーディネーションの欠如】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また大学との連携も重要である。たとえば前述のアラマイクバル大学は、識字・NFE学科があり、教員訓練コースを提供している。このようなリソースとのリンケージが必要。 ・NFEにおいては、様々なセクターとの連携が重要だが、コーディネーションが欠如しているのが課題である。(たとえば、農業セクターにおいても農民向け識字をおこなっており、教材作成等もおこなわれている。) <p>(3) 地方分権化の流れについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連邦教育省が今後どのようなようになるか不透明。 ・National Education Foundationについては残るが、FATA、KPAは連邦直轄、その他の地域は各州ごとの分割されると考えられる。
5. 入手資料	<p>Pakistan National Literacy & Non-Formal Basic Education Plan 2010-2015</p> <p>Government of the Punjab Five Year Strategic Plan for the Promotion of Literacy in the Province of Punjab 2010-2015 Aug. 2010</p> <p>National Standards for Teacher Education Nov.07, 2008</p> <p>Early Learning Developments Standards</p> <p>Early Childhood Education Dec. 2009</p>

1. 日時	2011年2月12日(土)
2. 場所	National Education Foundation
3. 面談者	Mr. Brigadier Siraj Und Din (Reted.) Director Project Ms. Nadia (MIS 担当)
4. 内容	<p>(1) PLPP との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NFEMIS の改定+トレーニングの実施。現在、19 郡で NFEMIS 導入のパイロットを実施。今後 NFE がオフィスを持つ他地域への展開を計画 <p>(2) 活動についての質疑応答</p> <p>①Basic Education Community School (BEC)について</p> <p>【学校の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校はすべて NEF の直営。かつては NGO 委託をしていた。 ・ 学校設置においては、新聞やラジオを通じた広報を行い、要請をあげてもらい。その後 NEF のフィールドオフィサーが調査をおこない、ニーズの確認・プライオリティを決定し、学校を設置する。 <p>【教員訓練】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用時に2週間の訓練。その後年1回のリフレッシュコース1週間実施を計画するものの、予算不足によりリフレッシュコースは実施できていない。 ・ 教員訓練にあたっては、各郡マスタートレーナーがあたる。マスタートレーナーは NFE 雇用の教員の中から選ばれ、イスラマバードで訓練を受けたものである。 ・ 教授法については、特段フォーマルと変わらない。(フォーマルでも複式学級は多々ある) <p>【BEC 生徒の進学について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ G5 の国家試験には、受験者の 85-90%が合格している。ただし、全体の就学者数からみた割合では 10%程度ということになる。 ・ ミドルスクールへの進学者数の追跡はされていない。 ・ 中退率は正確には測れていないが、NFEMIS の導入により把握が可能になってこよう。想定するには 30%位と考えられる。フォーマル・他 NFBE への天候や家事手伝い等に起因すると考えられる。 <p>【フォーマルへのメインストリームについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年途中でフォーマルへの以降は、BEC が School Leave Certificate を発行したり、受け入れ先のフォーマル学校での試験を通じてどの学年に入るか決まる。決まったやり方があるわけではない。 <p>【BEC のフォーマル化について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パイロットベースでギルギット・パロチスタンで実施(ノルウェー支援)。540 校の BEC をフォーマル学校に移行させるものであり、就学者数が数百単位の地域で実施しようとしている。土地・労働はコミュニティの提供、建設費はドナーから来る。しかしフォーマル化には政府の予算化が必要である。 <p>②15-35 才女性への識字クラス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予算がなくスキルトレーニングが実施できていない。スキルへの関心が高いことから、スキルトレーニングができないとなるとドロップアウト率が上がる。

1. 日時	2011年2月14日（月）
2. 場所	UNESCO
3. 面談者	Mr. Arhshad Saeed Kahn, Senior National Specialist (Education)
4. 概要	<p>(1) UNESCOによる支援</p> <p>①情報共有・アドボカシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状を示し、何をすべきかということアドボカシーしている。 ・ノンフォーマル初等教育より成人識字への関心が低い。 ・政府内にはパーマネントなストラクチャーがないため、人員も知見が不足しているのが現状。 <p>②能力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人識字のナショナルカリキュラム策定支援を行ったが、その後ナショナルカリキュラムのフォローが行われていない。右カリキュラムに沿った教科書の改訂が必要であり、その支援を行おうとしたが、反応は芳しくない。KPKやバロチスタンは改定を行ったが、NCHDは支援を行う予定であるも、まだ改定案が出てこない。 ・識字にかかわる人材育成用の教材作成もおこなっている。 ・パンジャブ州ではリテラシー・リソースセンターの設置を支援しているが、州からあがってきた中身は良くない。 <p>③CLC支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各州でCLCの実施を支援。そのほか、洪水被害を受けた地域での識字教育支援を行っている。 <p>(2) パンジャブ州の要請内容へのコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要請にあるカリキュラムやスタンダードの策定は重要。他方、それを実行することが肝心であり、そのための環境整備が重要。さもなくば理想で終わってしまう。 ・政治的な意思、行政のイニシアチブそして専門性の向上が必要である。 ・NFBEのカリキュラムについては、1986年に作成しようとする動きがあったが、失敗している。

1. 日時	2011年2月14日（月）
2. 場所	National Commission for Human Development
3. 面談者	Mr. Zulfiqar Ahmad, Director General Mr. Iqbal-ur Rehman, Director Education 他
4. 概要	<p>(1) NCHD の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2002年に設置。初等教育・基礎保健を中心に支援。人間開発ニーズやMDGとのギャップを埋めることを目的に、政府のサービスデリバリーを支援している。 <p>① 初等教育</p> <p>就学改善プログラムとして、世帯調査の実施、ドロップアウトの調査を行い、Feeder School（13,000校-分校）や機能していない政府の学校への支援（教員の供与）をおこなっている。</p> <p>② 識字</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に女性を対象とした識字プログラムを実施。6ヶ月でG3レベルの習得ができる。全体で140,000クラス行われている。他方、現状を鑑みるに、年250,000クラスの実施が必要とされており、大きなギャップがある。 ・ポストリテラシーのプログラムの作成や、CLC支援も行っている。 ・識字クラスのアセスメントは、4回行われている。ベースラインとセッションごとのアセスメントが実施される。（教科書が3セッションに分かれている）アセスメントはA-E段階あり、A-Cが合格で修了書もらえるが、D-Eは修了書を得ることはできない。 ・アセスメントはコーディネーター（30クラス担当）、エリアスーパーバイザー（10クラス担当）、コミュニティメンバーも交えておこなわれる。これらはすべてデータ入力される。 <p>③ パブリック・プライベート・パートナーシップ</p> <p>私企業が会費を払いボードメンバーを構成して、Pakistan Human Development Fund を運営している。（30Million Rp）</p> <p>(2) 今後の活動（質を確保するシステムの重要性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NCHDではNational Literacy Centerをもっており、教材開発、能力強化、研究開発を担う。今後各州にもリソースセンターを作っていくことを考えている。 ・識字ベンチマークの設定や、カリキュラムの改定、イクイバレンシーを作っていくことが必要とされている。 ・イクイバレンシーについては、TEVTAやフォーマルスクールへの移行が考えられるが、後者については年齢制限があることから、フォーマルスクールへの移行という選択はない。 ・能力開発については、教授法や記録作成、コミュニティ動員方法、モニタリング方法、アセスメント方法について、識字関係者に対する研修をおこなっている。 <p>(3) 憲法改正との関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NCHDの役割の必要性は変わらない。サービスデリバリーは州が担っていくことにはなる。

1. 日時	2011年2月14日(月)
2. 場所	Curriculum Wing, Ministry of Education
3. 面談者	Mr. Shamsuddin Mangrio, Joint Educational Adviser Mr. Arif Majeed, Joint Educational Advisor Dr. S. Tajammal Hussain Shar, Deputy Education Advisor
4. 概要	<p>2003年に作成された National Guideline for Literacy にある提言に基づき、成人識字のカリキュラム作成や、アセスメントツールの開発、アクレディテーション開発、教材開発ガイドライン開発を行っている。</p> <p>(1)成人識字カリキュラムの作成プロセスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な団体がバラバラに識字教育をおこなっていることから、ミニマムスタンダードの必要性及び継続的な教育のための Certificate としてカリキュラムの必要性があった。 ・初等教育、機能識字、生計向上の各分野の専門家によるコアグループを結成し、ステークホルダーとの会議(イスラマバード)、各州でのミーティング、さらにナショナルレベルでのミーティングというプロセスを踏まえて作成。 ・カリキュラム作成後、各団体の教科書がカリキュラムに沿っているか否かのチェックは Project Wing がレビューすることになっている。 <p>(2)アセスメントツールの開発、アクレディテーション開発、教材開発ガイドライン開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントツールは開発を終え、シンド語に翻訳中。ゆくゆくは英語にも翻訳予定。 ・アクレディテーションは、現在コンサルタントが作成中。近々ナショナルレベルのミーティングを開催予定。アクレディテーションがあることにより、フォーマルシステムによって認められることとなる。 ・教材開発のためのガイドラインは、ナショナルカリキュラムに合致した識字教材となっているか確認するためのクライテリアを作成するものである。 ・なお、これら連邦が作成するものは、モデルを示すものであり、各州実行していくものである。 <p>(2)NFBE カリキュラムの作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Dr. Saleem は、NFBE カリキュラムを作成したいという意思を持っているようであるが、憲法改正による地方分権化により、未定。 ・州で作ることに問題はなく、逆に州で作ったものを連邦が他州へ提示していくこともありうる。(過去にそのようなケースもあった模様) <p>州レベルで NFBE カリキュラムを作成していくにあたっては、カリキュラム Wing を巻き込むことが肝要。</p> <p>(3)カリキュラムのレビュー作業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムのレビューは1ヶ月~6ヶ月あればできると考えられる。 <p>(4)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人識字の学習者のクラス終了後のメインストリームに関し、現時点ではフォーマルへの転入は年齢制限があるためできない。年齢制限の撤廃は重要な問題であるが、本件は州で決定していく事項である。

1. 日時	2011年2月14日(月)
2. 場所	Institute of Mass Education, Allama Iqbal Open University (AIOU)
3. 面談者	Dr. Taria Mahmood, Lecturer, Department of Economy Ms. Abida Rwan, Research Assistant, ILME Ms. Nighat Farood, Programme Coordinator Ms. Zahida Qazi
4. 概要	<p>・ AIOU では下記5つのプログラムを提供。</p> <p>①Basic Function Education, ②Women Basic Education, ③Women Middle Education, ④Secondary Education, ⑤Short-term Education</p> <p>(1)Women Middle Education について</p> <p>・ Women Middle Education をパイロット事業としておこなった背景は、AIOUに入る学生が必要であること、他方で AIOU 入学に必要なミドルスクール卒業生が少なく、ミドルスクール支援も少ないことによる。</p> <p>・ パンジャブ州 (2004-2008)・バロチスタン州 (2008-2011) の2州に各10箇所ずつセンターをつくり、250名の生徒が学んだ(12-25才)。センターはフォーマルスクールを活用し、放課後利用した。</p> <p>・ 入学資格に G5 国家試験を合格している必要はなく、合格していない場合は7学期3カ年、合格していれば6学期間の授業を受ける。</p> <p>・ カリキュラムはフォーマルに沿っているが、シラバスや教科書は学習者のニーズに従って改訂した。(6つの義務教科: ウルドゥ、英語、イスラム教、社会、数学、生活科学に加え、2つの技術を中心とした授業が教えられる。)</p> <p>・ 教員は12学年卒業が資格となっているが、地域の女性を雇用するため、場所によっては10学年卒業生の場合もある。教員は、2週間のトレーニングを学期が始まる前に受講する。教員研修には AIOU 以外に他大学のリソースや現職教員と連携して実施した。</p> <p>・ 250名の内、上述 Secondary Education へ進学したものが20名、その他フォーマルセカンダリーに進学したものもいる。</p> <p>(2)レディヘルスワーカー育成のための Women Middle School について</p> <p>・ 上記パイロット事業とは別に、バロチスタンでは、レディヘルスワーカーの資格要件であるミドルスクール卒業生が少ないことから、保健省からの要請で女性対象の18ヶ月(3学期)のコースも提供し、80名の生徒が学んだ。</p>

1. 日時	2011年2月14日(月)
2. 場所	Pre-STEP (USAID funded Project)
3. 面談者	Ms. Helen Kirby GC Assistant Director Mr. Nooruddin Shar, Provincial Coordinator Mr. Kamaran Iftikhar Lone, Provincial Director Ms. Nasreen Gul, Senior Program Coordinator
4. 概要	<p>(1)教員スタンダードの開発について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員スタンダードの開発は、Pre-STEPの前フェーズに行われた。 ・開発プロセスは、各州でのコンサルテーション(州政府関係者、教員、NGO等)を踏まえ、海外から専門家を招聘したコンサルテーションをおこなった。このような過程は参加者のオーナーシップを醸成する上で肝要である。 ・開発自体は2-4ヶ月あればできるが、コンサルテーションには時間がかかる。 ・スタンダード開発を行う上でのチャレンジは、多くの人に関与し、多くの声が聞かれることである。また、各州ごとにも事情が異なるため、提示するのは核となるものである。 ・これを元に各州の文脈にあったものへとしていけばよく、実際にそのような声が聞かれた。 ・本スタンダードは全国的に配布された。(英語・ウルドゥ各5000部) ・(現スタンダードはアメリカの教員スタンダードとほぼ同じであるという指摘に対し)本作業のリーダーがアメリカでの経験が長く、また海外の専門家もいたことからそのようになったのではないかと推測される。 <p>(2)Pre-STEPの概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は前フェーズで作成された教員スタンダードに基づき、さらに詳細化している。40-50名からなるコアグループを結成し、教員経験によるレベル分け(レベル1-4)とスタンダードごとのブレイクダウンをおこなっている。 ・これは評価のフレームワークとして活用することを目的としており、具体的には、教員養成における教員養成校の学生が実習する際に活用されている。 ・評価者は教員養成校の教官となる。実習受け入れ先の学校が行うことも望ましいが、現時点ではそこまでには至っていない。 ・また、本スタンダードは教員教育をおこなっていくためのガイドラインという位置づけであり、明示的に教員教育の中に含めるというよりも、既存の科目の中に内在化しているイメージである。 ・なお本スタンダードを使った評価にあたっては、それによって学生を判断するのではなく、そのためにどうするかという教官と学生のコミュニケーションが大事である。 ・現職教員に対しても活用されることは重要であるが、本プロジェクトのスコープ外である。

1. 日時	2011年2月15日(火)
2. 場所	Planning & Development Department, Punjab Govt.
3. 面談者	Khalid Basir Sheikh, Chief of Section (Board 教育担当) (教育セクション担当)
4. 内容	<p>(1) プロジェクトモードでの識字局の活動について</p> <p>識字局のみならずすべての局に対して、承認されたプロジェクトごとに活動しているのは非効率であり、より効率的に各局が活動できるように1つのプロジェクトとして活動するということがパンジャブ政府の高官から通達が来ている。この場合、1人のプロジェクトダイレクターが活動全体を見ることになる。19-20レベルの者であり、次官レベルに相当する。</p>

1. 日時	2011年2月15日(火)
2. 場所	Literacy and Non-Formal Basic Education Department
3. 面談者	Mohammed Mahmood, Additional Secretary Mohammed Anees Ahmed, Deputy Secretary Administration Ubaid Ullah, Deputy Secretary Planning/Project Director of Capacity Building Project Syed Billal Haider, Project Director of 4 Model Districts Project Project Director of Literacy Programme
4. 内容	<p>(1) 識字局の活動についてプレゼンテーション</p> <p>質疑応答：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国家カリキュラムをどのように扱うか パンジャブのコンテキストにあわせる必要がある。 ・ スタンドが必要ということであるが、どのように活用するのか 質を改善するためにはスタンダードなどを利用した研修が必要 ・ アクレディテーションをはじめると NGO 等がサービスを提供しづらくなるのでは ノンフォーマル教育の 80%は識字局が提供している。20%は NGO 等である。NGO 等の活動を阻害するものではないが、まずは識字局が提供するサービスを一定の質にまであげることが懸命。 ・ プログラム修了の証明書はどの機関が行うことを想定しているか Punjab Examination Board や、研修機関が発行することが望ましい。現時点では定まった考えはない。現状としては、各成人識字センターによって試験が行われており、EDO が証明書を発行している。 <p>(2) 組織体制について CB プロジェクトの人員配置は洪水の影響により、ストップしていた。現時点では CB プロジェクトにはプロジェクトダイレクターを含めて 6 人が配置されている。2 日前に P&D 局によって、追加の人員配置が承認されているが、具体的な追加人数については確認して連絡する。</p> <p>(3) その他 CB プロジェクト以外のプロジェクトは洪水の影響により、70%の予算を削減されている。</p>

1. 日時	2011年2月15日(火)
2. 場所	Directorate of Staff Development (DSD)
3. 面談者	Mr. Nadeem Irshad Kayani, Programme Director
4. 概要	<p>(1) DSDの業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DSDの傘下には教員養成大学(PITE、8学年まで教えられる免許を発行)が33あり、6,000人の学生が学んでいる。 ・現職教員研修も担当している。パンジャブ州には約16,000校、約300,000人の教員がいる。 ・その他、パイロットとして、スクールベーストレーニングも実施。District Education Teacherが月1回モニタリングをしている。District Education Teacherは教員の中から選ばれる。学校は15-20校でクラスター化される。県レベルではRegional Program Managerが5人いる。3フェーズに分け、12県/フェーズで展開予定。 ・Teacher Standardsはあるが、具体的なものとなっていないため、インディケーター等、詳細化が必要である。 ・また、Teacher Standardsを定着させていくには、教員研修と現場レベルでのモニタリングをあわせて行っていくことが肝要。 <p>(2) 識字局との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(識字教員の訓練をおこなうことは可能かという問いに対し、) 州レベルでは人員も限られているため難しいが、郡レベルでの研修は可能である。識字局またはプロジェクトから要請レターがくれば、対応可能。

1. 日時	2011 年 2 月 17 日 (木)
2. 場所	Technical Education & Vocational Training Authority (TEVTA)
3. 面談者	Mr. Saeed Ahmad Alvi, Chairperson Mr. Saeed Ahmad Alvi, Chairperson Prof. Javed Iqbal Malik, General Manager (Academics)
4. 概要	<p>(1) Chairperson 表敬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ALC の卒業生へのプログラムについては、どのようなニーズがあるのか把握していく必要がある。 ・ そのような地域のニーズを確認したうえで、機材サポートや日当の支援があれば、識字局から協力依頼にこたえることも可能であろう。 <p>(2) Prof. Malik</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Literate 向けのコースも実施。Literate かどうかの確認は各センターにて読み書きとスピーキングの試験を実施している。 ・ 現在 ALC で実施している識字コースの修了書では Primary コースへ入るための正式な書類とは認められない。そのようにするためには、識字局と TVETA との間での公式なやり取りが必要。 ・ コースの受講には、月 100-300Rp 受講者が支払う。本来は 3,000Rp/月かかるが、政府の補助により、小額で受講することができる。このほかにかかる経費としてはマニュアル購入 (50Rp) 程度。 ・ TEVTA は州内に 483 センターをもち、130,000 人の学生が学んでいる。(タシルレベルに最低 1 校ある) 内、150 センターが女性のみとなっている。その他センターでは男女へコースを提供している所もある。ニーズベースでコースを提供。

1. 日時	2011年2月18日（月）
2. 場所	Punjab Examination Commission
3. 面談者	Mr. Naseem Nawaz, Chief Executive Officer
4. 概要	<p>(1) 試験受講者の概要</p> <p>受講資格は特に設けていない。4種類の受講者がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立学校の学生 ・プライベートスクールの学生 ・学校に属さない受講者（ノンフォーマル学校等） ・学校に属さない受講者（上記以外） <p>受講に際し年齢制限は特に設けていない。4つ目のカテゴリーの受講者は100名に満たない。合格率などのデータはない。成人識字教育を受けた生徒は4+に相当するとあるが、「識字教育」という定義からすると同等であるとは言いがたい。試験には年齢制限がないため、5年生試験を受講すればいいのではないか。5年生試験は難しくない。</p> <p>(2) PECの活動</p> <p>PECの活動は試験の実施を通じて、教育にアドバイスをしていくことにある。学習の成果のモニタリング、次のレベルの教育へのリンケージを支援している。ユニオンカウンシルレベルのデータを収集し、分析を行い、教授方法に反映させるという活動をしている。</p> <p>試験の開発には、まず初稿を作成するのに40日、その後2度の検証作業を繰り返す。</p> <p>(3) 採用しているカリキュラム</p> <p>2006年に作成されたカリキュラムが存在するが、現時点では2002年のものが使用されている。まもなく2006年のものが採用される予定。内容の80%は同じである。</p>

1. 日時	2011年2月18日(月)
2. 場所	School Education Department, Punjab Govt.
3. 面談者	Mr. Nadeem ur Rehman, Additional Secretary - Education Sector Reform
4. 概要	<ul style="list-style-type: none"> ・パンジャブ州には合計 63,000 校の小学校が存在する。 ・パンジャブ州では教育省が作成したカリキュラムを利用している。たとえ、憲法改正によりカリキュラムなどの権限が州に移ったとしても、カリキュラム等を改定する必要性は感じていない。 ・現在 GIS を用いた MIS を構築中である。 ・教育局とノンフォーマル教育局との間で定期的なミーティングが必要。

別添 3 用語の解説

Terms of Use in Literacy and NFE Project

terms	Meanings
NFE system	<p>Operational mechanism to provide access to life-long learning opportunities for improving quality of life of children, youth and adults including those with special needs and who have missed out formal education; provide them with adequate knowledge, technical/work skill and life-skill through relevant and quality learning programs.</p> <p>For this purpose, it is necessary to provide various measures to ensure and maintain professional approach, effective implementation procedures and quality such as;</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Minimum standards to ensure for providing quality learning environment and teaching-learning, teachers' standards with their improvement and maintenance 2. Core NFE curriculum and learning modules including competencies to be achieved by learners in various courses 3. Learning material development in line with the core curriculum. 4. Learning assessment procedure, instruments and systems. 5. Strategies and mechanism for NFE graduates to participate in the community/society 6. Equivalency between FE and NFE, and between Technical institute and NFE where applicable, 7. Adequate system, with minimum standards, of training of teachers, facilitators and supervisors 8. Reliable mechanisms for program management, monitoring, evaluation and long-term capacity building
Learning Environment Standards	<p>Standards to ensure that all individuals have access to relevant, quality education in secure learning environments. With physical protection and psychosocial well being of learners, teachers and other education personnel.</p> <p><Expected State></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Equal Access for continuous learning 2. Protection of learning environments and Well-being of learners in physical, mental and etc. 3 Facilities and Services for required conditions
Teachers' standards	<p>Teacher's standards set the parameters for specific expectations in regards to Professional Knowledge, Skills and Dispositions. Seek to understand the contributions that teachers make to the mechanisms by which classroom related activities lead to desirable learning outcomes of the learners</p> <p><Expected State></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Understanding the contents (Knowledge) 2. Teaching methodology: instruction and learning processes are learner-centred, participatory and inclusive. (Skills) 3. Assessing learning outcomes of individual learner/student. (skills/competencies)
Learning Standards	<p>Learning Standards are defined as an expectations that indicates what learners should be able to understand or do</p> <p>Learning standards define the desired outcomes levels that learners should achieve from participating in the appropriate education and</p>

	<p>experience</p> <p><Expected State></p> <p>1. Content standards: Content standards refers to expectations in a specific subject area</p> <p>2. Process or lifelong learning standards : Process or life learning standards are defined as content free standards that apply across subject areas(Include complex thinking standards, communication standards and group related standards</p>
Curriculum for Adult Literacy	<p>The aim of Adult Literacy curriculum is to provide learning opportunity and contents for out of school population (age 15⁺) who never went to school or have dropped out before becoming literate.</p> <p>ALC program develop their literacy and numeracy skills relevant to their practical life, and enabling them to improve quality of their lives. Thus, the Curriculum for Adult Literacy includes basic literacy, life skills works skills and enhancing earning capacities for poverty reduction.</p>
Curriculum for NFBE and middle/elementary	<p>There are two age groups:</p> <p>1 Age 5-8 (School going age children)</p> <p>2. Age 9-14 (school going age but formal schools do not accept those children)</p> <p>Based on the formal curriculum, but have to customize with 40 months duration.</p> <p>*Note: Children under 15 are prohibited to work (not child-labor) Their choices are 1) go back formal school be for age 10 (only 1st group children are possible), 2) complete NFBE and go to Formal middle/elementary school, 3) complete NFBE and go to NFE middle /elementary, 4) go for work/continue to learn in technical institute (only age 11+children)</p>
Accreditation	<p>Accreditation is the process of quality assurance whereby an institution o program evaluates itself, is evaluated by third party and develops a plan to improve in relation to predetermined standards. As a result of this process, any NGOs and education related institutions are awarded a certificate that states their current status and testifies to their commitment for continuous improvement in relation to the predetermined standards.</p>
Equivalency system	<p>Learning/education is undertaken in a variety of settings; informal, non-formal and formal. For this reason, it is important to recognize learning outcomes and establish equivalencies between what is learnt through either formal or non-formal education.</p> <p>(<i>cf.</i> Some Asian countries have developed equivalency system that can promote the flexibility of student entry to and from formal and non-formal channels of education at primary and secondary education levels.)</p> <p>Equivalency develops systematic linkages between various NFE programs and the existing formal general or vocational education systems. These process can play an important role in expanding the learning time and space of learners by providing them with appropriate recognition and certification of their achievement as incentives for them to continue learning throughout their lives.</p>

別添 4 収集資料リスト

収集資料リスト

	名称	入手先	備考
1	Pakistan National Literacy & Non—Formal Basic Education Plan2010-2015	Ministry of Education Project Wing	教育省作成の NFE5 カ年計画
2	Government of the Punjab Five Year Strategic Plan for the Promotion of Literacy in the Province of Punjab 2010-2015 Aug. 2010	Ministry of Education Project Wing	教育省作成の NFE5 カ年 (パンジャブ州用)
3	National Standards for Teacher Education Nov.07, 2008	Ministry of Education Project Wing	国家教員研修用スタンダード
4	National Curriculum for Literacy 2007	Ministry of Education Curriculum Wing	識字教育の国家カリキュラム (教員スタンダード、学習スタンダード等も含む)
5	Education for All (Facts and Figures)	Ministry of Education Project Wing	パキスタンの教育指標をまとめたパンフレット
6	パワーポイント資料コピー	NEF	NEF の活動、JICA との連携をまとめたプレゼン資料
7	Training Manual for Trainers Non-formal Basic Education	NEF	ノンフォーマル基礎教育の教員に対する研修マニュアル
8	National Education Foundation	NEF	NEF の概要を示すパンフレット
9	NFE The Best Way to Literate Pakistan	NEF	フォーマル教育と NFE とを比較したパンフレット
10	Woman Basic Education Programme	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
11	Woman Middle Education Programme	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
12	Short Term Education Programmes Social Sciences	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
13	Short Term Education Programmes Community Education	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
14	Short Term Education Programmes Hotel Services	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
15	Short Term Education Programmes Management Services	Institute of Mass Education, AIOU	AIOU のプログラムのパンフレット
16	National Professional Standards for Teachers in Pakistan	Pre-STEP	Pre-STEP が作成した国家教員スタンダード
17	パワーポイント資料コピー	LNFBED	LNFBED の活動を取り纏めたプレゼン資料
18	ショートコース一覧	TEVTA	TEVTA が提供するショートコース (3、6ヶ月) 一覧及び受講要件
19	Advice for Teachers Grade 5 Examination 2009 "Mathmatic and Urdu"	PEC	UNICEF 支援により作成された試験結果から授業への反映方法をまとめたマニュアル
20	Work Breakdown Structure of PEC	PEC	PEC の活動をまとめたプレゼン資料
21	Results of examination 2011 for grade 5&8	PEC	2011 年の試験結果
22	Rersult Card for examination for grade 5&8	PEC	試験結果通知書
23	Order "Constitution of MIS Joint Working Group"	LNFBED	識字局にワーキンググループ設立する旨の指示書
24	Order "Constitution of Monitoring & Evaluation Joint Working Group"	LNFBED	識字局にワーキンググループ設立する旨の指示書

25	Order "Constitution of Training Joint Working Group"	LNFBED	識字局にワーキンググループ設立する旨の指示書
26	Order "Applying NFEMIS to every projects of LNFBED"	LNFBED	識字局のすべてのプロジェクトに NFEMIS を適用する旨の指示書
27	Note "Requiritment of Capacity Development Project"	LNFBED	P&D 局から識字局に対する追加人員配置を通知するリスト
28	Note "Merger of PMUs of Literacy Department"	LNFBED	P&D 局から識字局にプロジェクトユニットを1つに統合する旨を通知した指示書